

第 16 回
豊川市市民意識調査報告書

【概要版】

令和7年8月
豊 川 市

はじめに

豊川市では、第6次総合計画に基づき、本市の未来像である「光・緑・人 輝くとよかわ」の実現を目指し、少子高齢化と人口減少への対応を意識し先を見据える視点に立ち、定住・交流施策、シティセールス、市民協働、行政経営改革に取り組みながら、多くの人に住みたい、訪れたいと思ってもらえるまちづくりを進めています。「元気なとよかわ 子育てにやさしく 人が集うまち」を政策の目標とし、今後の施策を展開していくために、皆様のご意見を積極的にお伺いすることが重要であると考えております。

そこで、市民の皆様に、市のこれまでの取組みに対する評価をいただき、現在の生活環境や今後のまちづくりについてのご意見等をお聴きするため、「第16回豊川市市民意識調査」を実施しました。

このたび、調査結果がまとまりましたのでここに公表するとともに、いただいた貴重なご意見については、市民の皆様に満足していただける市政の実現に向けて、活用してまいります。

最後に、ご多用中、本調査にご協力いただきました多くの市民の皆様に心から御礼申し上げます。

令和7年8月

豊川市長 竹本 幸夫

I 調査概要

1 調査対象及び調査方法

- ①調査地域 ・ 豊川市全域
- ②調査対象者 ・ 豊川市に在住する18歳以上の男女
- ③標本数 ・ 5,000人
- ④標本抽出方法 ・ 住民基本台帳等による無作為抽出
- ⑤調査期間 ・ 令和7年4月28日から5月16日まで
- ⑥調査方法 ・ 郵送配布、郵送回収及びWeb回答

2 調査票の回収状況

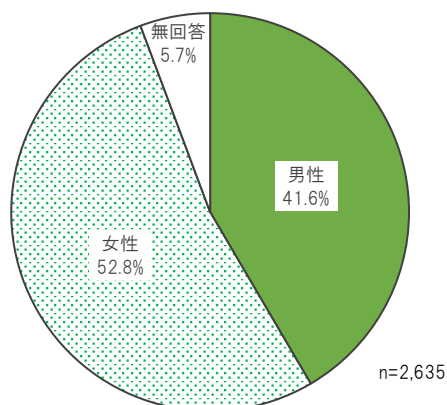
有効配布数	4,988件	配布数	5,000件
有効回収数(内Web回答)	2,635件(666件)	回収数	2,641件
有効回収率	52.8%		

3 報告書の見方

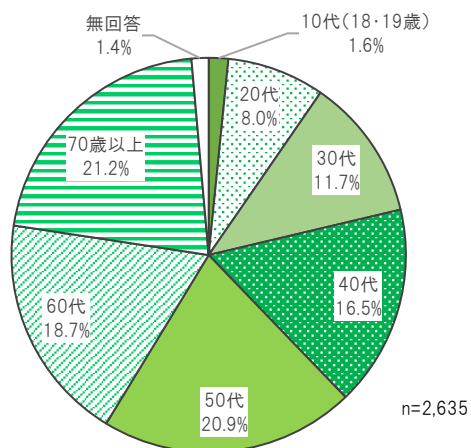
- ・ グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示している。
- ・ 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100.0%にならない場合もある。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合がある。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略している。また、選択肢が無いために該当する数値が無い場合は※印で表示している。
- ・ グラフ・表や文中において、選択肢の文章を簡略化してある場合がある。

Ⅱ 回答者の属性

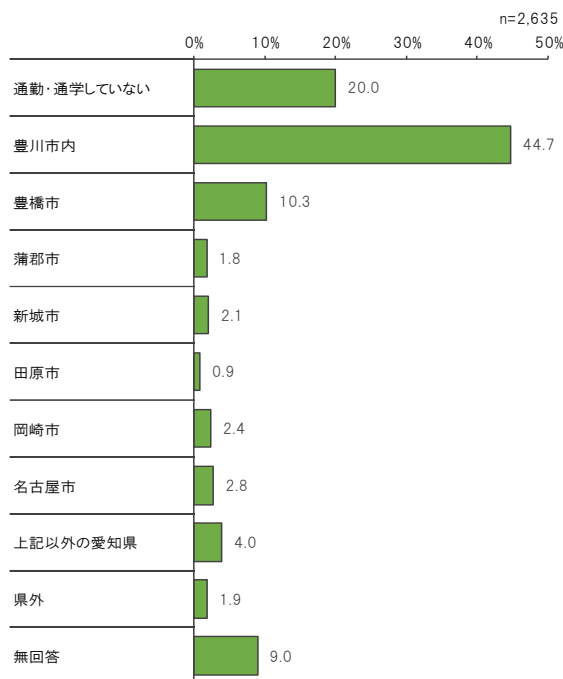
図表 1 性別



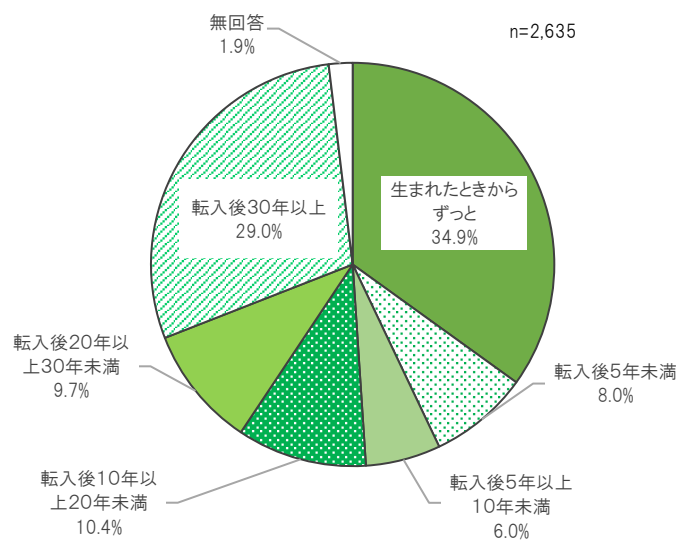
図表 2 年齢



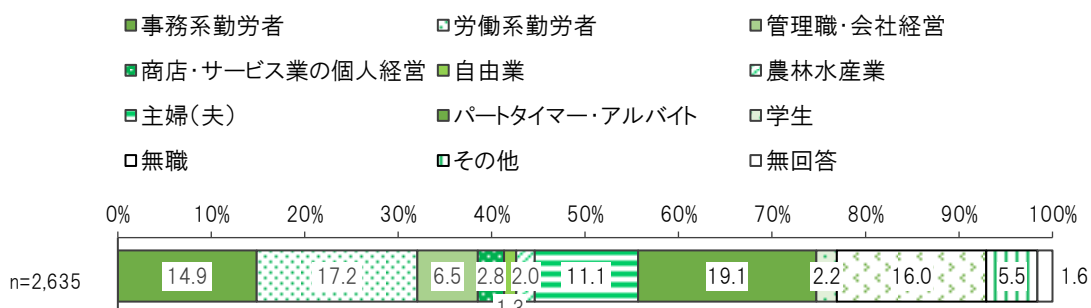
図表 3 通勤・通学先



図表 4 居住年数



図表 5 職業



Ⅲ 調査の分析

1 市全体の生活環境

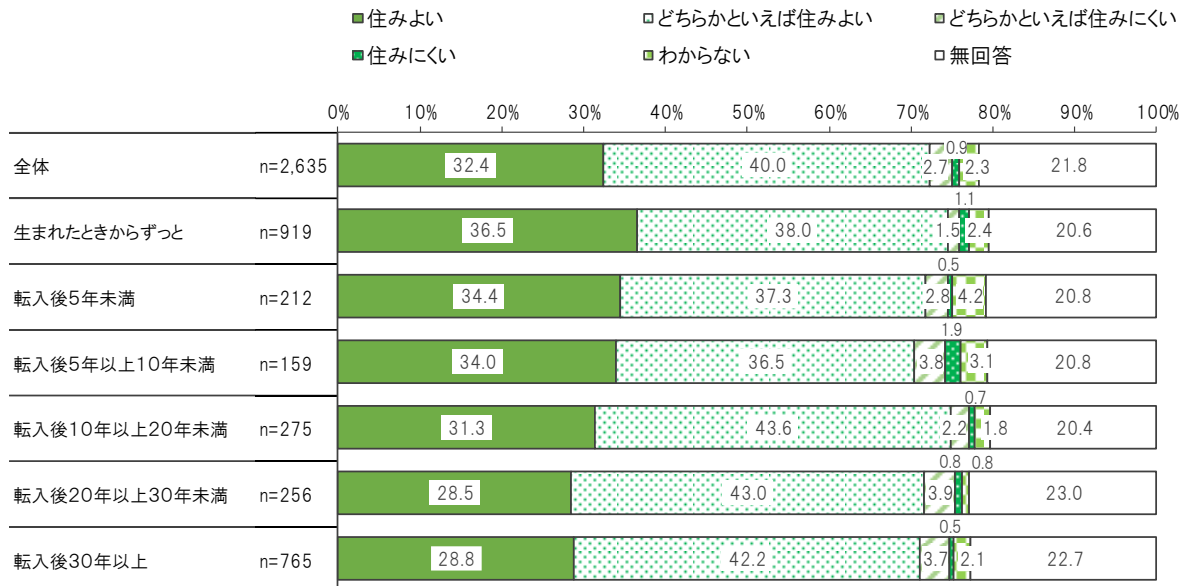
1 豊川市の住みよさ

問1 豊川市は、住みよいまちだと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ □“住みよい”が72.4%、“住みにくい”が3.6%

豊川市の住みよさについては、「どちらかといえば住みよい」（40.0％）の割合が最も高く、次いで「住みよい」（32.4％）となっており、この2つをあわせた“住みよい”は72.4％となっている。一方、「どちらかといえば住みにくい」（2.7％）、と「住みにくい」（0.9％）をあわせた“住みにくい”は3.6％となっている。【図表6】

図表 6 豊川市の住みよさ

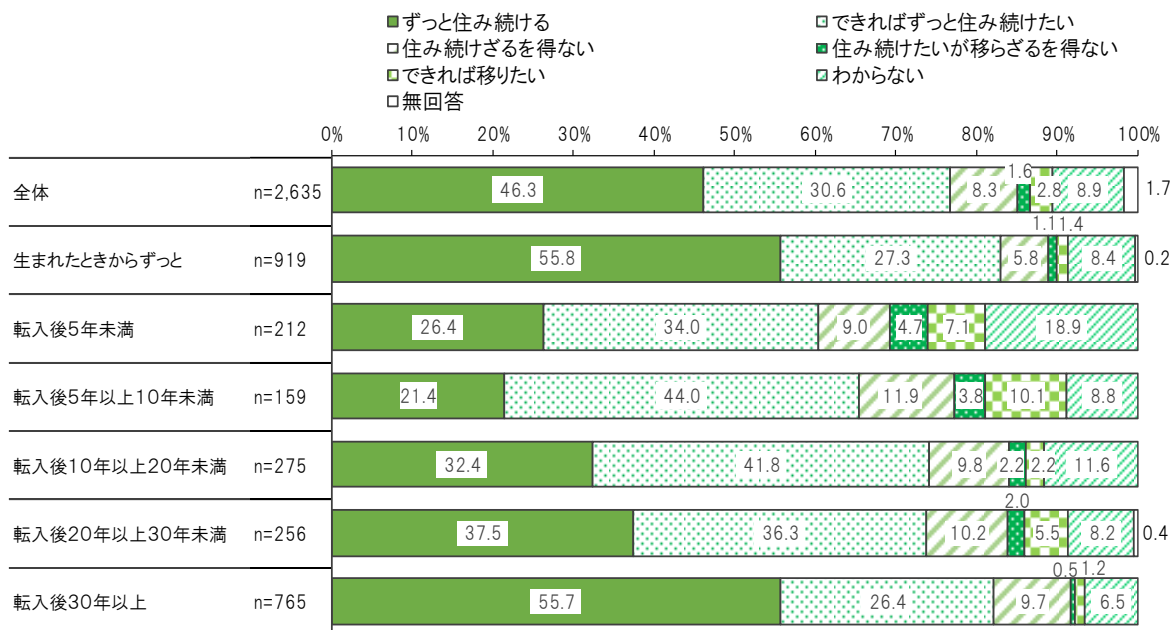


2 定住意向

◆ 「ずっと住み続ける」が46.3%、「できればずっと住み続けたい」が30.6%

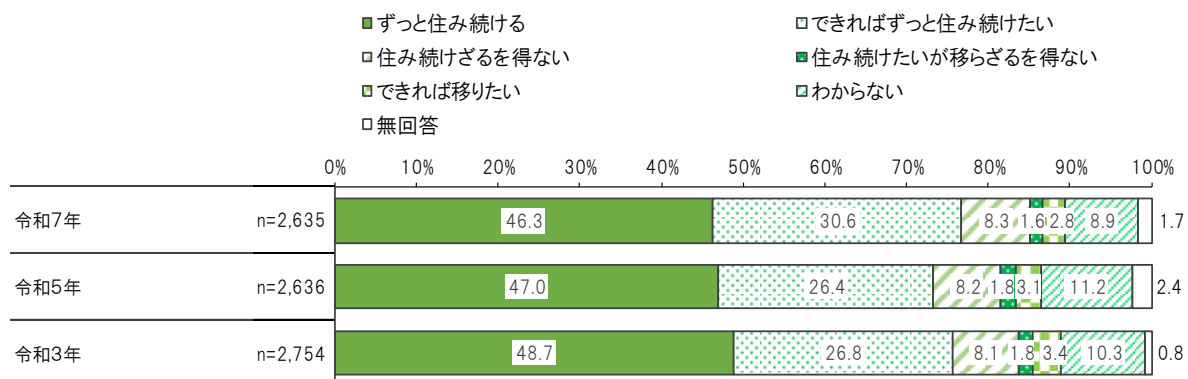
定住意向について、「ずっと住み続ける」（46.3%）の割合が最も高く、次いで「できればずっと住み続けたい」（30.6%）、「わからない」（8.9%）の順となっている。【図表 7】

図表 7 定住意向



経年比較でみると、「ずっと住み続ける」の割合はわずかに減少しているものの、「できればずっと住み続けたい」の割合は前回調査と比較して4.2ポイント増加している。【図表 8】

図表 8 定住意向(経年比較)



2 豊川市の市政の評価

1 満足度の評価

(1) 全体評価

豊川市の市政における現状の満足度について、「安全・安心」「子ども・若者」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・雇用」「地域・行政」の7分野49項目に対して、「満足」を＋2点、「まあ満足」を＋1点、「やや不満」を－1点、「不満」を－2点、「わからない」を0点として項目ごとに評価点を算出した。その結果、豊川市全体では、市政の満足度の平均値は0.28となっており、前回の0.37から0.09ポイント減少している。【図表 9】

◆ 満足度がプラス評価の項目が44項目、マイナス評価の項目が5項目

項目別にみると、満足度がプラス（0以上）になっている項目は合計44項目あり、満足度の高い項目から順に「11 水道水の安全・安定供給」（0.98）、「23 緑・自然の豊かさ」（0.87）、「8 ごみ処理対策」（0.80）、「9 生活における衛生環境」（0.74）、「33 日用品などの買い物の利便性」（0.69）となっている。

一方、満足度がマイナスになっている項目は5項目となり、満足度の低い項目から順に「2 歩行者にとっての道路の安全性」（-0.25）、「21 公共交通機関の利便性」（-0.09）、「22 道路の整備状況」（-0.06）、「35 中心市街地の活性化」「36 観光の振興」（いずれも-0.02）となっている。【図表 10】

◆ 前回より評価点が高くなった項目が16項目、低くなった項目が31項目

前回調査より満足度の評価点が高くなった項目は16項目となっている。「39 人権の尊重」が0.16ポイント高くなっており、次いで「38 男女共同参画」が0.11ポイント高くなっている。

一方、前回調査より満足度の評価点が低くなった項目は31項目で、特に「35 中心市街地の活性化」が0.35ポイント低くなっている。次いで、「22 道路の整備状況」が0.29ポイント、「32 商業の振興」が0.28ポイント、「16 医療環境」「21 公共交通機関の利便性」「36 観光の振興」がいずれも0.26ポイント低くなっている。【図表 10】

※「14 若者への支援」「44 行政のデジタル化」は前回調査項目に含まれず

図表 9 分野別満足度平均値

	全体	安全・安心	子ども・若者	健康・福祉	建設・整備	教育・文化	産業・雇用	地域・行政
満足度平均	0.28	0.43	0.19	0.28	0.28	0.30	0.20	0.21

図表 10 市政に対する満足度の評価点



2 重要度の評価

(1) 全体評価

豊川市の今後の市政を進めるにあたっての重要度を、「安全・安心」「子ども・若者」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・雇用」「地域・行政」の7分野49項目に対して、「非常に重要」を＋2点、「やや重要」を＋1点、「さほど重要でない」を－1点、「重要でない」を－2点、「わからない」を0点として項目ごとに評価点を算出した。その結果、豊川市全体では、市政の重要度の平均値は1.00となっており、分野別の最大値は1.56、最小値は0.32であった。【図表 11、12】

◆ 重要度の評価点が1.00以上の項目が24項目、1.00未満の項目が25項目

分野別にみると、「安全・安心」分野（1.35）での重要度が高くなっている。【図表 11】

項目別にみると、「4 地震などに対する防災対策」（1.56）で重要度が最も高くなっており、次いで「6 救急体制」「11 水道水の安全・安定供給」（いずれも1.49）、「2 歩行者にとっての道路の安全性」「3 防犯対策」「16 医療環境」（いずれも1.46）の順となっており、上位6項目のうち5項目が「安全・安心」分野の項目となっている。その他「子ども・若者」「健康・福祉」分野でも重要度の高い項目がみられる。【図表 12】

◆ 前回より評価点が高くなった項目が39項目、低くなった項目が8項目

前回調査より重要度の評価点が高くなった項目は39項目となっており、「4 地震などに対する防災対策」が0.39ポイント増、「13 青少年の育成・支援」が0.36ポイント増、「14 子どもを生み、育てる環境」が0.34ポイント増、「3 防犯対策」が0.33ポイント増、「11 水道水の安全・安定供給」が0.32ポイント増となっている。

一方、前回調査より重要度の評価点が低くなった項目は8項目で、「24 公園の状況」「40 国際交流活動・多文化共生」がいずれも0.09ポイント減、「45 行政サービス」が0.03ポイント減、「38 男女共同参画」「39 人権尊重」「47 職員の定員適正化」がいずれも0.02ポイント減となっている。【図表 12】

※「14 若者への支援」「44 行政のデジタル化」は前回調査項目に含まれず

図表 11 分野別重要度平均値

	全体	安全・安心	子ども・若者	健康・福祉	建設・整備	教育・文化	産業・雇用	地域・行政
重要度平均	1.00	1.35	1.16	1.10	0.92	0.60	0.95	0.80

図表 12 市政に対する重要度の評価点



3 満足度と重要度の評価

(1) 全体評価

- ◆ 全体では、「歩行者にとっての道路の安全性」で満足度が低く、重要度が高くなっており、優先度が高い

豊川市の市政における現在の満足度の評価点と重要度の評価点を「安全・安心」「子ども・若者」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・雇用」「地域・行政」の7分野49項目について算出し、座標上に表した。横軸が満足度、縦軸が重要度となっており、それぞれの平均値は、満足度が0.28、重要度が1.00となっている。

図の左上部分は、重要度が高く、満足度が低い項目であり、今後の施策の強化が望まれている優先度の高い項目であると言える。【図表14】

強化が望まれている優先度*の高い項目は、「2 歩行者にとっての道路の安全性」(1.71)、「4 地震などに対する防災対策」(1.53)、「3 防犯対策」(1.45)、「22 道路の整備状況」(1.25)、「1 交通安全対策」(1.24)などとなっている。【図表13】

※優先度は「重要度－満足度」で算出し、値が大きいものを優先度が高いと評価している

※(図表13：満足・重要・優先度5項目)優先度の数値が同じ場合は、重要度が高い方を上位と位置付ける

※(図表13：満足・重要・優先度5項目)満足度と重要度では、小数点第3位まで算出して位置付けを行っている

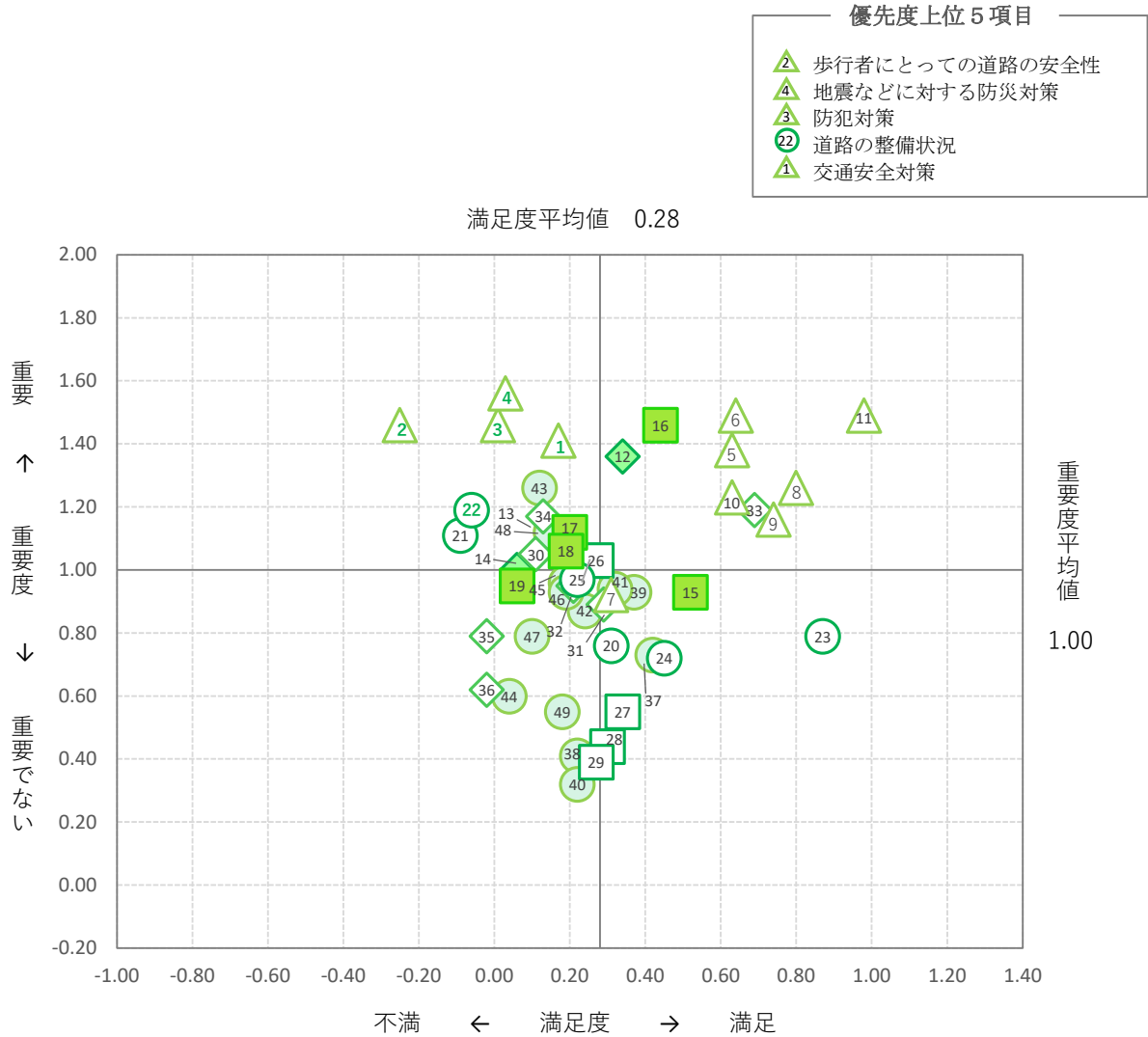
図表 13 満足・重要・優先度5項目

順位	満足度 上位5項目		順位	満足度 下位5項目	
1	水道水の安全・安定供給	0.98	1	歩行者にとっての道路の安全性	-0.25
2	緑・自然の豊かさ	0.87	2	公共交通機関の利便性	-0.09
3	ごみ処理対策	0.80	3	道路の整備状況	-0.06
4	生活における衛生環境	0.74	4	中心市街地の活性化	-0.02
5	日用品などの買い物の利便性	0.69	4	観光の振興	-0.02

順位	重要度 上位5項目	
1	地震などに対する防災対策	1.56
2	救急体制	1.49
2	水道水の安全・安定供給	1.49
4	歩行者にとっての道路の安全性	1.46
4	防犯対策	1.46
4	医療環境	1.46

順位	優先度 上位5項目	
1	歩行者にとっての道路の安全性	1.71
2	地震などに対する防災対策	1.53
3	防犯対策	1.45
4	道路の整備状況	1.25
5	交通安全対策	1.24

図表 14 市政に対する満足度と重要度の関係



凡 例									
△ 安全・安心	1	交通安全対策	○ 建設・整備	20	住環境の整備（区画整理・住宅対策など）	○ 地域・行政	37	地域のつきあいや人間関係	
	2	歩行者にとっての道路の安全性		21	公共交通機関の利便性		38	男女共同参画	
	3	防犯対策		22	道路の整備状況		39	人権の尊重	
	4	地震などに対する防災対策		23	緑・自然の豊かさ		40	国際交流活動・多文化共生	
	5	消防体制		24	公園の状況		41	市からの情報提供・公表	
	6	救急体制		25	河川の状況		42	公共施設の適正配置	
	7	地球環境の保全	□ 教育・文化	26	学校の指導や取り組み		43	道路、橋などの適正な維持管理	
	8	ごみ処理対策		27	生涯学習の取り組み		44	行政のデジタル化	
	9	生活における衛生環境		28	スポーツの振興		45	行政サービス	
	10	生活排水対策		29	文化芸術の振興		46	職員の資質向上	
	11	水道水の安全・安定供給		30	農業の振興		47	職員の定員適正化	
◆ 若者	12	子どもを生み、育てる環境	◇ 産業・雇用	31	工業の振興		48	健全な財政運営	
	13	青少年の育成・支援		32	商業の振興		49	東三河広域連合の活用	
	14	若者への支援		33	日用品などの買い物の利便性				
■ 健康・福祉	15	健康づくり		34	雇用の安定・勤労者支援				
	16	医療環境		35	中心市街地の活性化				
	17	高齢者福祉		36	観光の振興				
	18	障害者福祉							
	19	経済的な自立支援							

3 安全・安心について

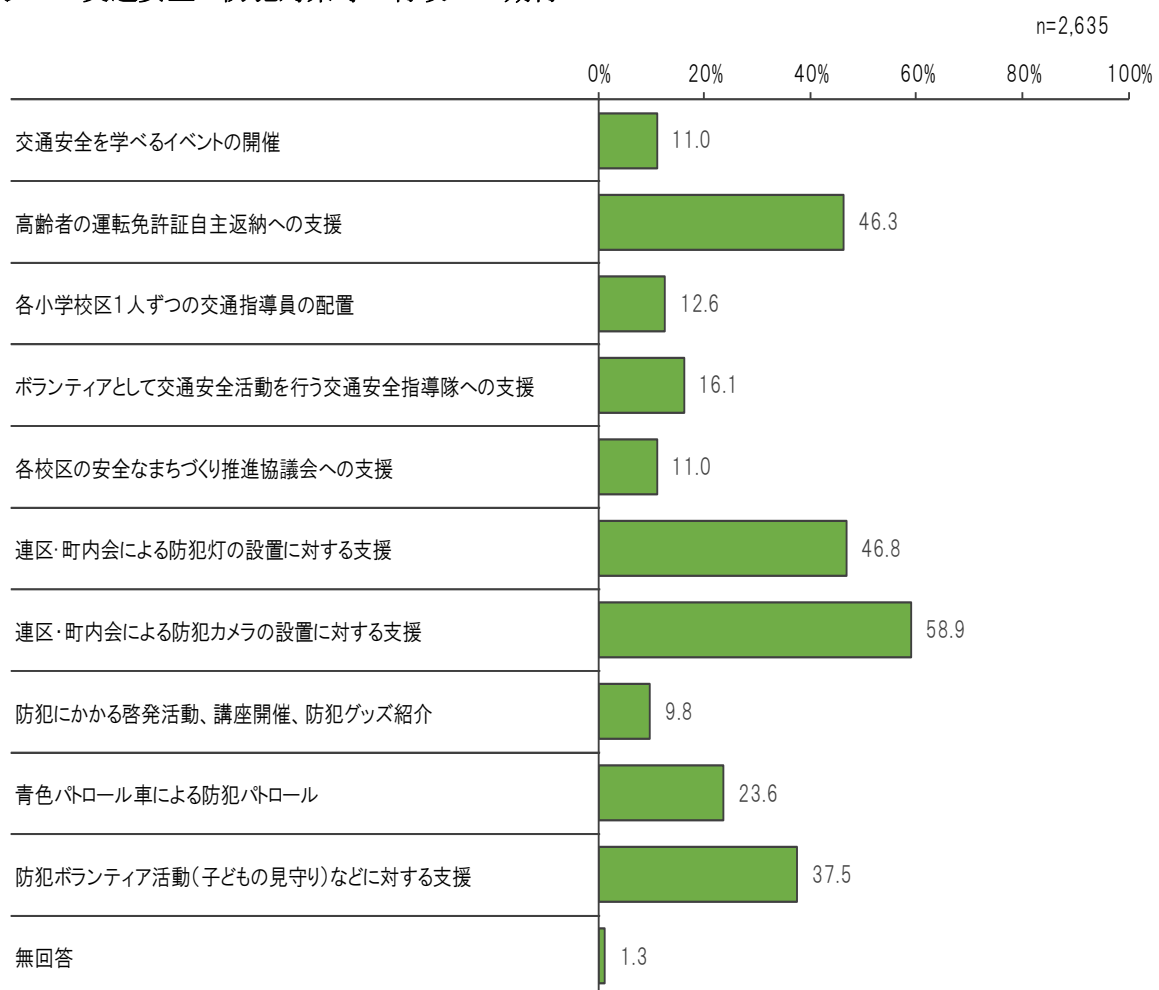
1 交通安全・防犯対策等の行政への期待

問3 行政が実施している次の交通安全・防犯対策等について、行政にどのようなことを期待しますか。3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 交通安全・防犯対策等で行政に期待することは「連区・町内会による防犯カメラの設置に対する支援」が58.9%

交通安全・防犯対策等への期待では、「連区・町内会による防犯カメラの設置に対する支援」（58.9%）が最も高く、次いで「連区・町内会による防犯灯の設置に対する支援」（46.8%）、「高齢者の運転免許証自主返納への支援」（46.3%）の順となっている。【図表 15】

図表 15 交通安全・防犯対策等の行政への期待



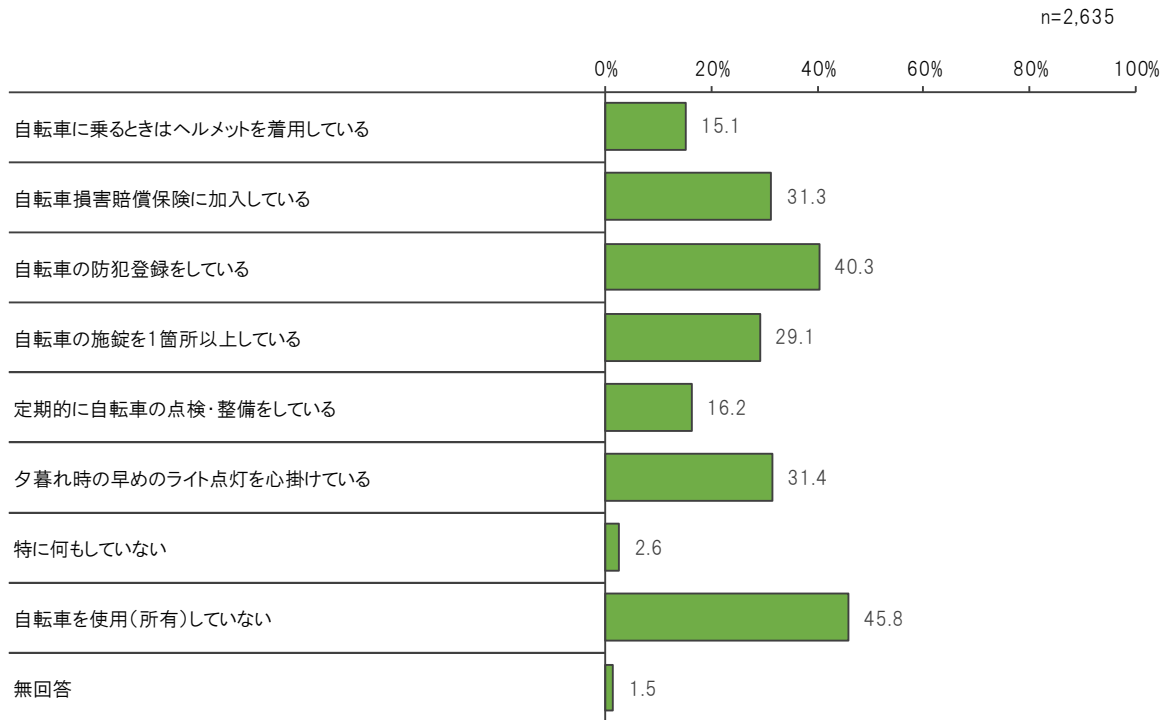
2 自転車の安全な利用のための心掛け

問4 あなたは、自転車の安全な利用について、日ごろからどのようなことを心掛けていますか。
次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 自転車の安全な利用のための心掛けは「自転車の防犯登録をしている」が40.3%

自転車の安全な利用のための心掛けでは、「自転車の防犯登録をしている」(40.3%)が最も高く、次いで「夕暮れ時の早めのライト点灯を心掛けている」(31.4%)、「自転車損害賠償保険に加入している」(31.3%)の順となっている。【図表 16】

図表 16 自転車の安全な利用のための心掛け



3 日ごろの地震に備えた対策

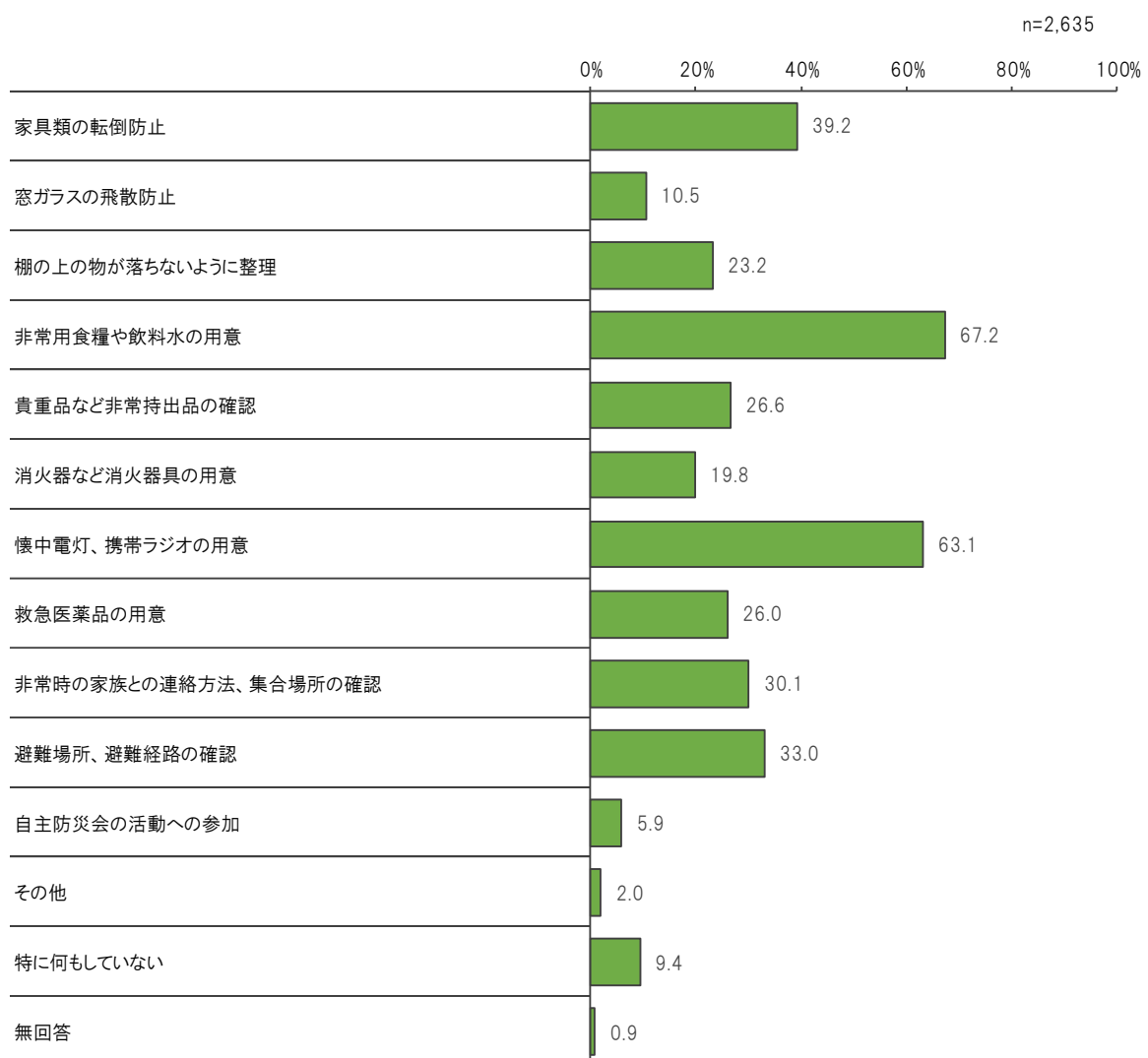
問5 あなたのご家庭では、日ごろ地震に備えてどのような対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 日ごろの地震に備えた対策は「非常用食糧や飲料水の用意」が67.2%

日ごろの地震に備えた対策は、「非常用食糧や飲料水の用意」(67.2%)が最も高く、次いで「懐中電灯、携帯ラジオの用意」(63.1%)、「家具類の転倒防止」(39.2%)の順となっている。

【図表 17】

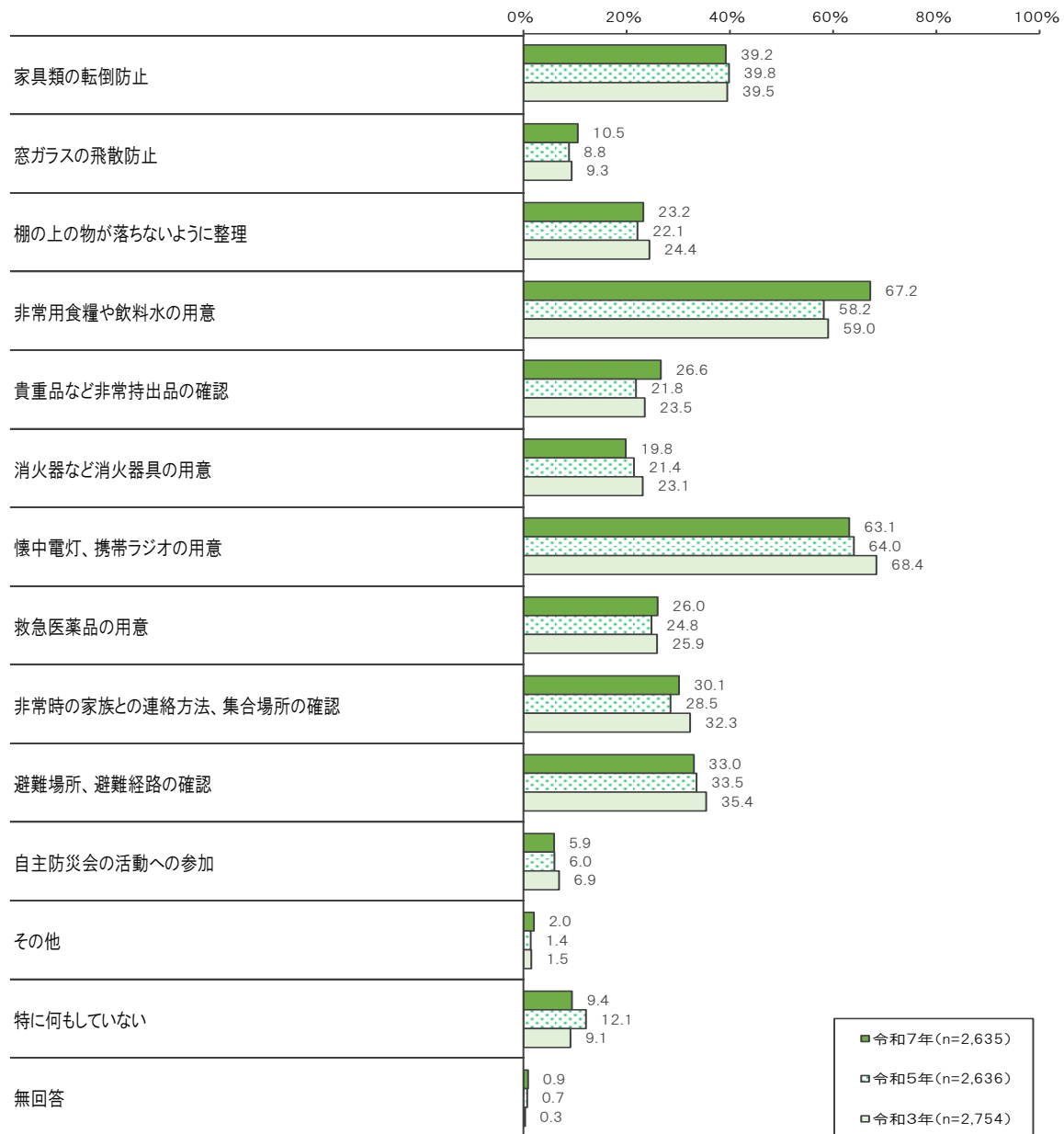
図表 17 日ごろの地震に備えた対策



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「非常用食糧や飲料水の用意」(9.0ポイント増)、「貴重品など非常持出品の確認」(4.8ポイント増)、「窓ガラスの飛散防止」(1.7ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「特に何もしていない」(2.7ポイント減)、「消火器など消火器具の用意」(1.6ポイント減)などとなっている。

【図表 18】

図表 18 日ごろの地震に備えた対策（経年比較）



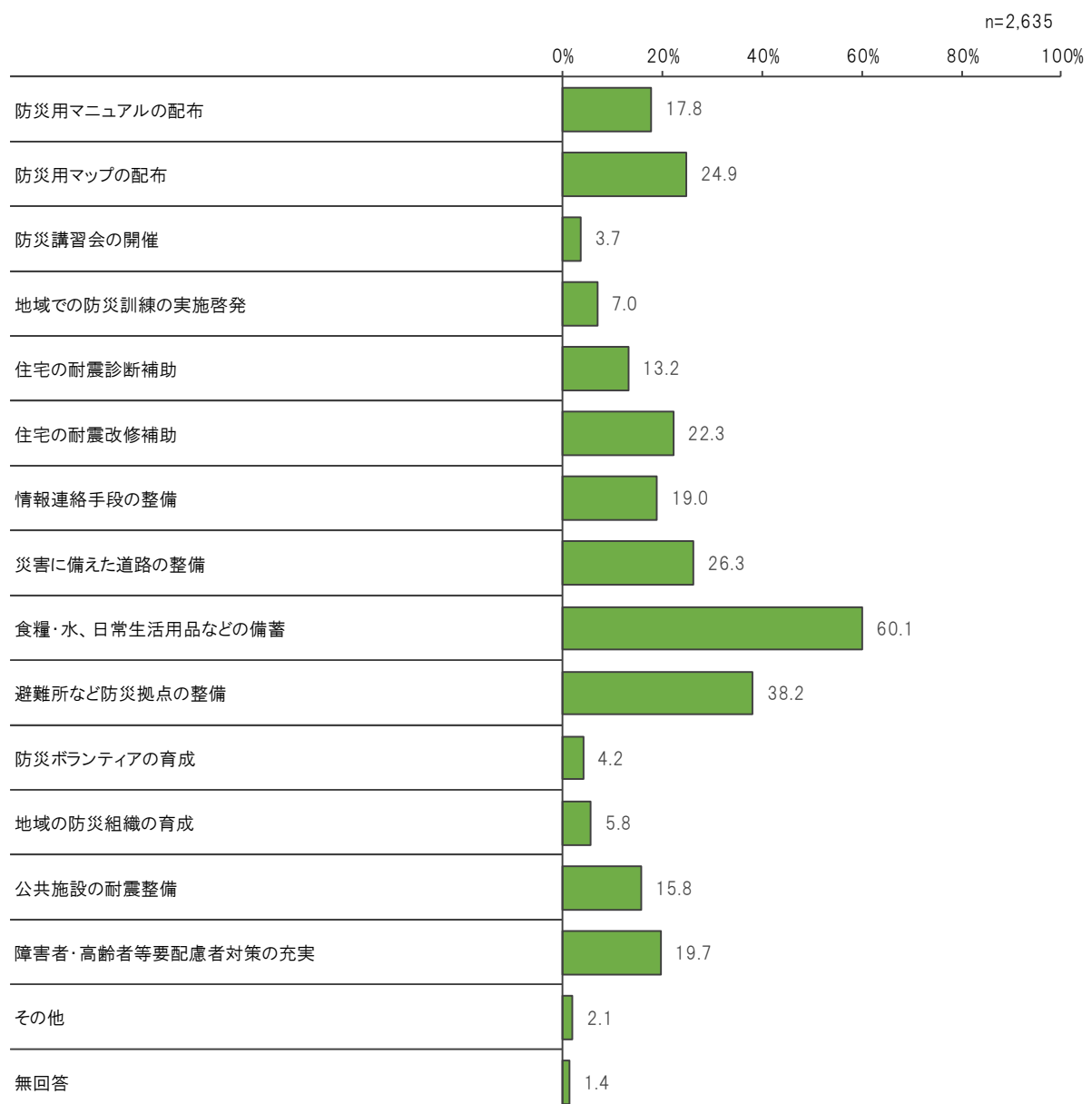
4 防災対策の行政への期待

問6 あなたは、防災対策として、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 防災対策で行政に期待することは「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」が60.1%

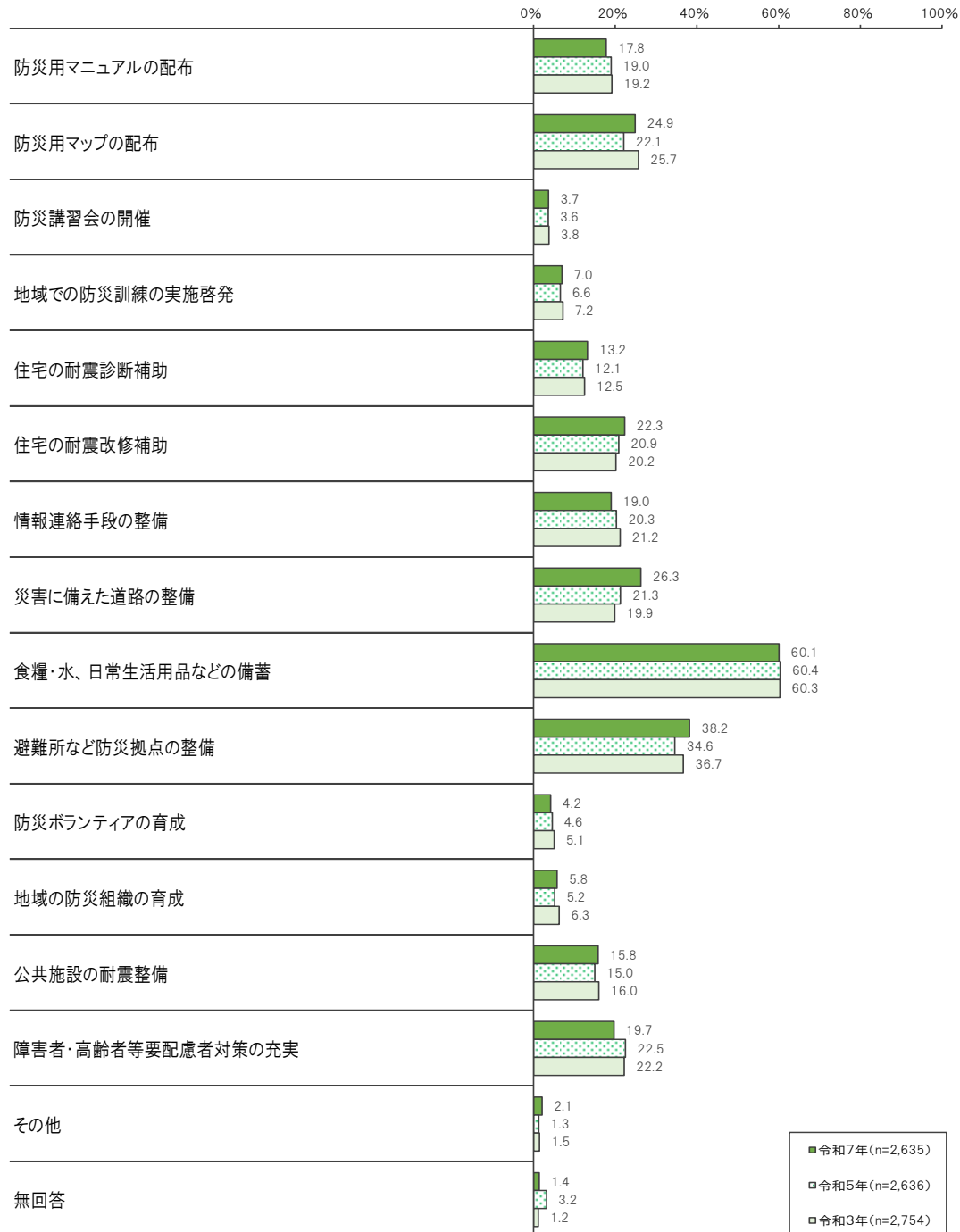
防災対策で行政に期待することは、「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」（60.1%）が最も高く、次いで「避難所など防災拠点の整備」（38.2%）、「災害に備えた道路の整備」（26.3%）の順となっている。【図表 19】

図表 19 防災対策の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「災害に備えた道路の整備」(5.0 ポイント増)、「避難所など防災拠点の整備」(3.6 ポイント増) などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「障害者・高齢者等要配慮者対策の充実」(2.8 ポイント減)、「情報連絡手段の整備」(1.3 ポイント減) などとなっている。【図表 20】

図表 20 防災対策の行政への期待（経年比較）



5 衛生環境の行政への期待

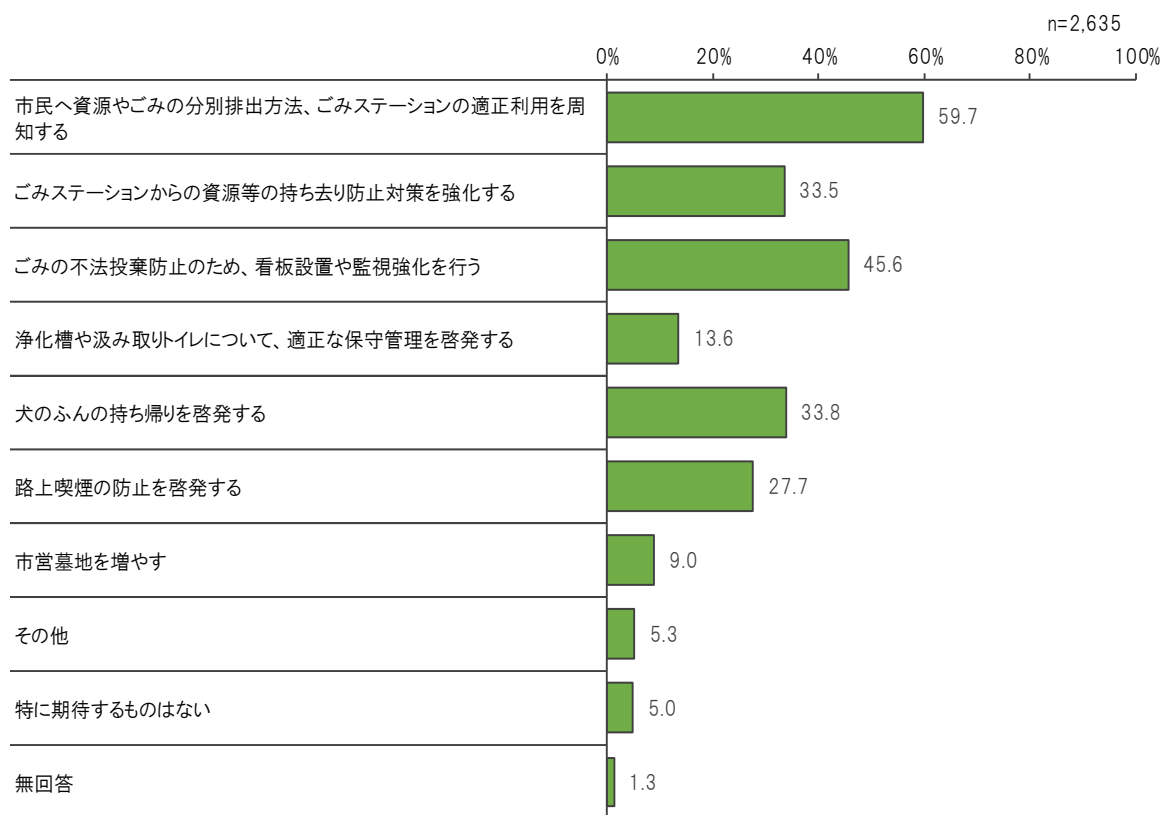
問7 あなたが生活する上での衛生環境について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 衛生環境で行政に期待することは「市民へ資源やごみの分別排出方法、ごみステーションの適正利用を周知する」が59.7%、「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」が45.6%

衛生環境で行政に期待することは、「市民へ資源やごみの分別排出方法、ごみステーションの適正利用を周知する」(59.7%)が最も高く、次いで「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」(45.6%)、「犬のふんの持ち帰りを啓発する」(33.8%)の順となっている。

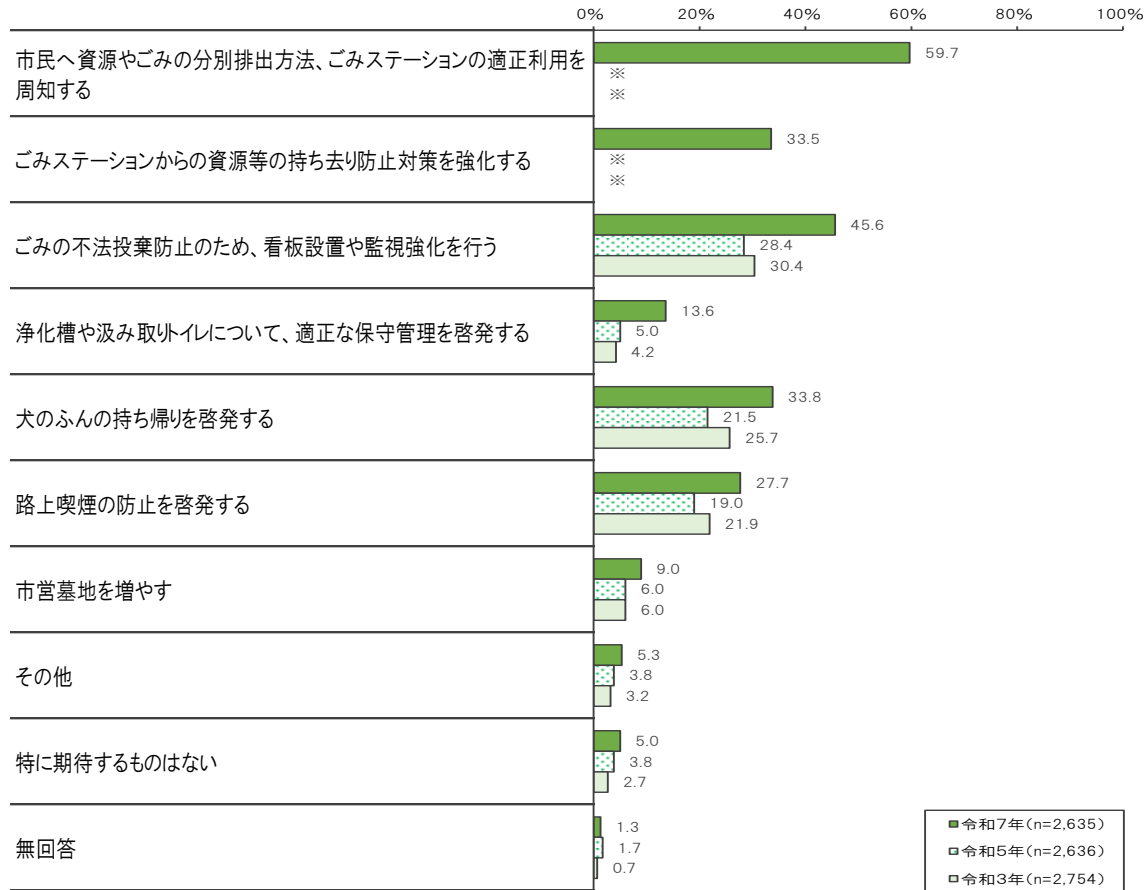
【図表 21】

図表 21 衛生環境の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」(17.2 ポイント増)、「犬のふんの持ち帰りを啓発する」(12.3 ポイント増) などとなっている。【図表 22】

図表 22 衛生環境の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

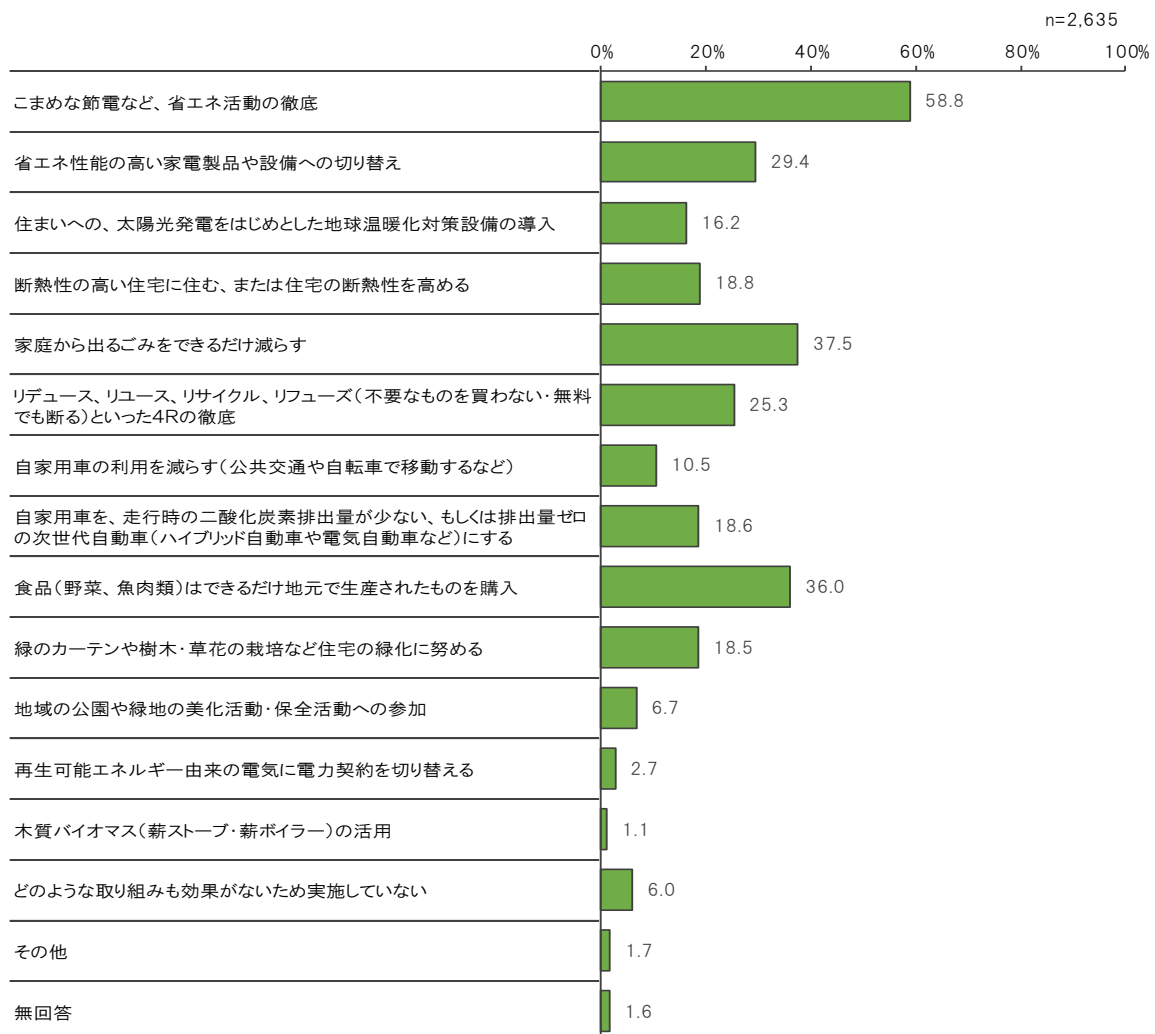
6 地球温暖化対策の取り組み

問8 あなたは、温室効果ガス（主に二酸化炭素）排出量ゼロに近づけるために、日ごろからどのようなことに取り組んでいますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 温室効果ガス（主に二酸化炭素）排出量ゼロに近づけるために、日ごろから取り組んでいることは「こまめな節電など、省エネ活動の徹底」が58.8%

温室効果ガス排出量削減のために日ごろ生活の中で心掛けていることは、「こまめな節電など、省エネ活動の徹底」（58.8%）が最も高く、次いで「家庭から出るごみをできるだけ減らす」（37.5%）、「食品（野菜、魚肉類）はできるだけ地元で生産されたものを購入」（36.0%）の順となっている。【図表 23】

図表 23 地球温暖化対策の取り組み



4 子ども・若者について

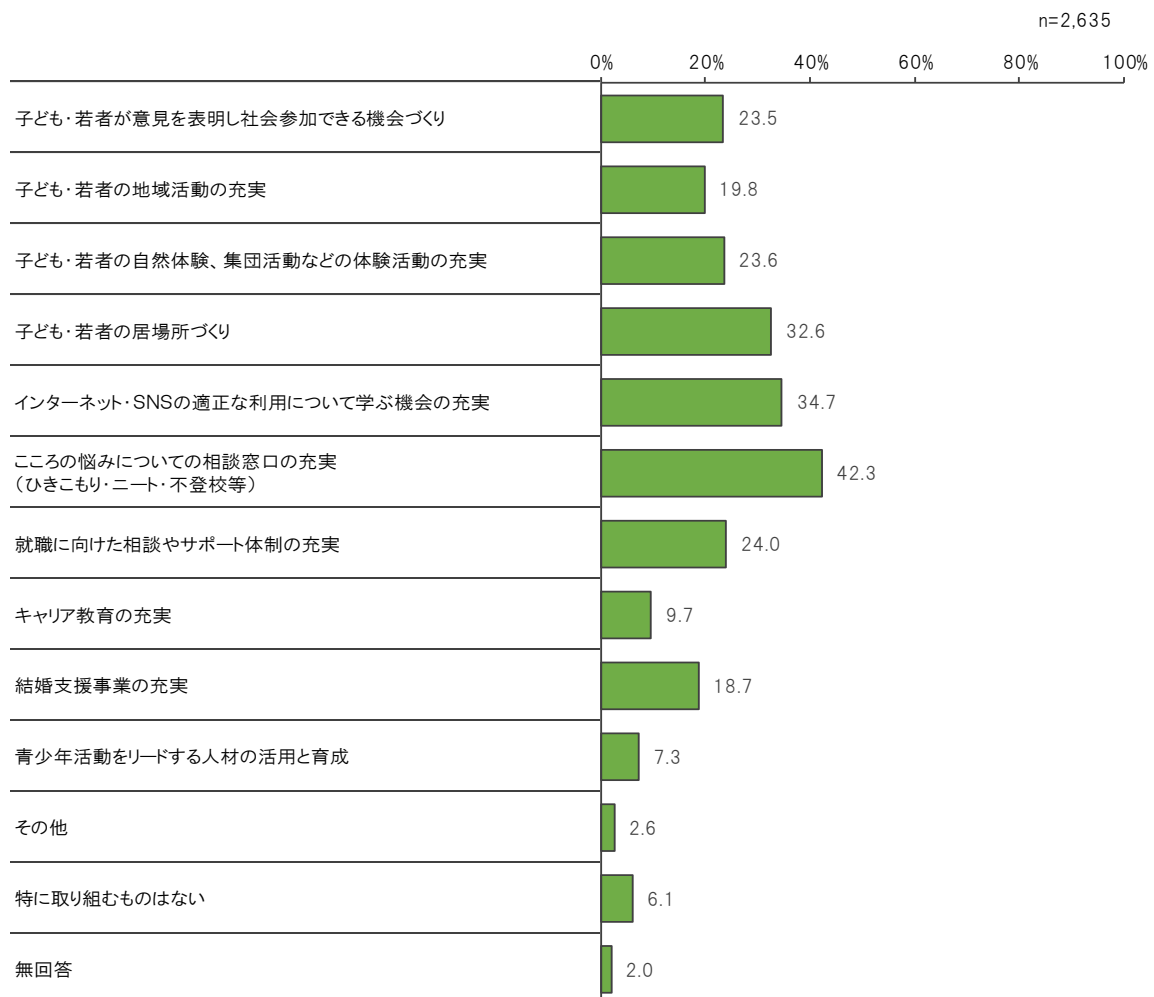
1 子どもや若者支援のために行政が取り組むべきこと

問9 あなたは、子どもや若者の施策について、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 子どもや若者支援のために行政が取り組むべきことは「こころの悩みについての相談窓口の充実」が42.3%

子どもや若者支援のために行政が取り組むべきことは、「こころの悩みについての相談窓口の充実（ひきこもり・ニート・不登校等）」（42.3%）が最も高く、次いで「インターネット・SNSの適切な利用について学ぶ機会の充実」（34.7%）、「子ども・若者の居場所づくり」（32.6%）の順となっている。【図表 24】

図表 24 子どもや若者支援のために行政が取り組むべきこと



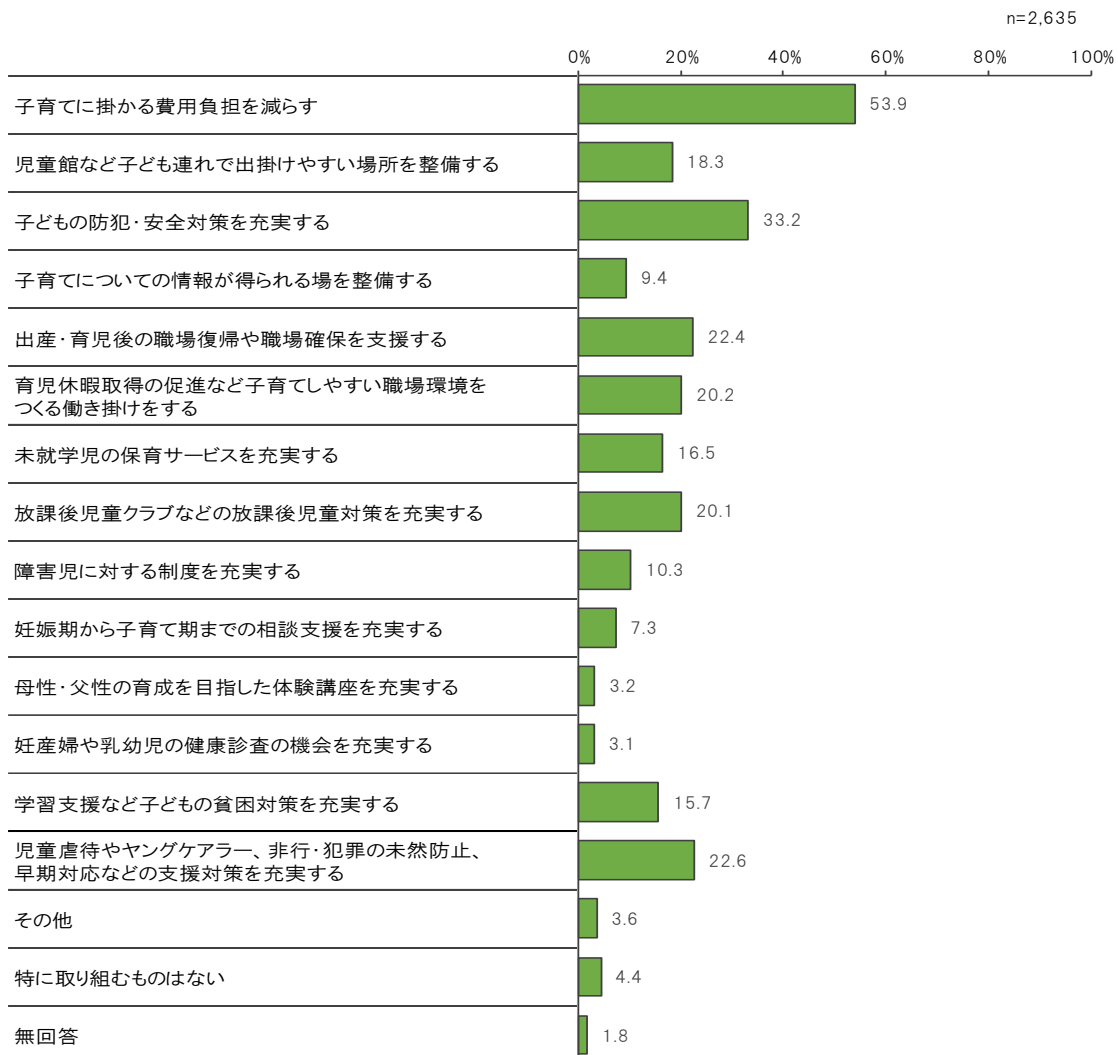
2 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと

問10 あなたは、子どもを生み、育てる環境を充実させるために、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 子どもを生み、育てる環境を充実させるために行政が取り組むべきことは「子育てに掛かる費用負担を減らす」が53.9%

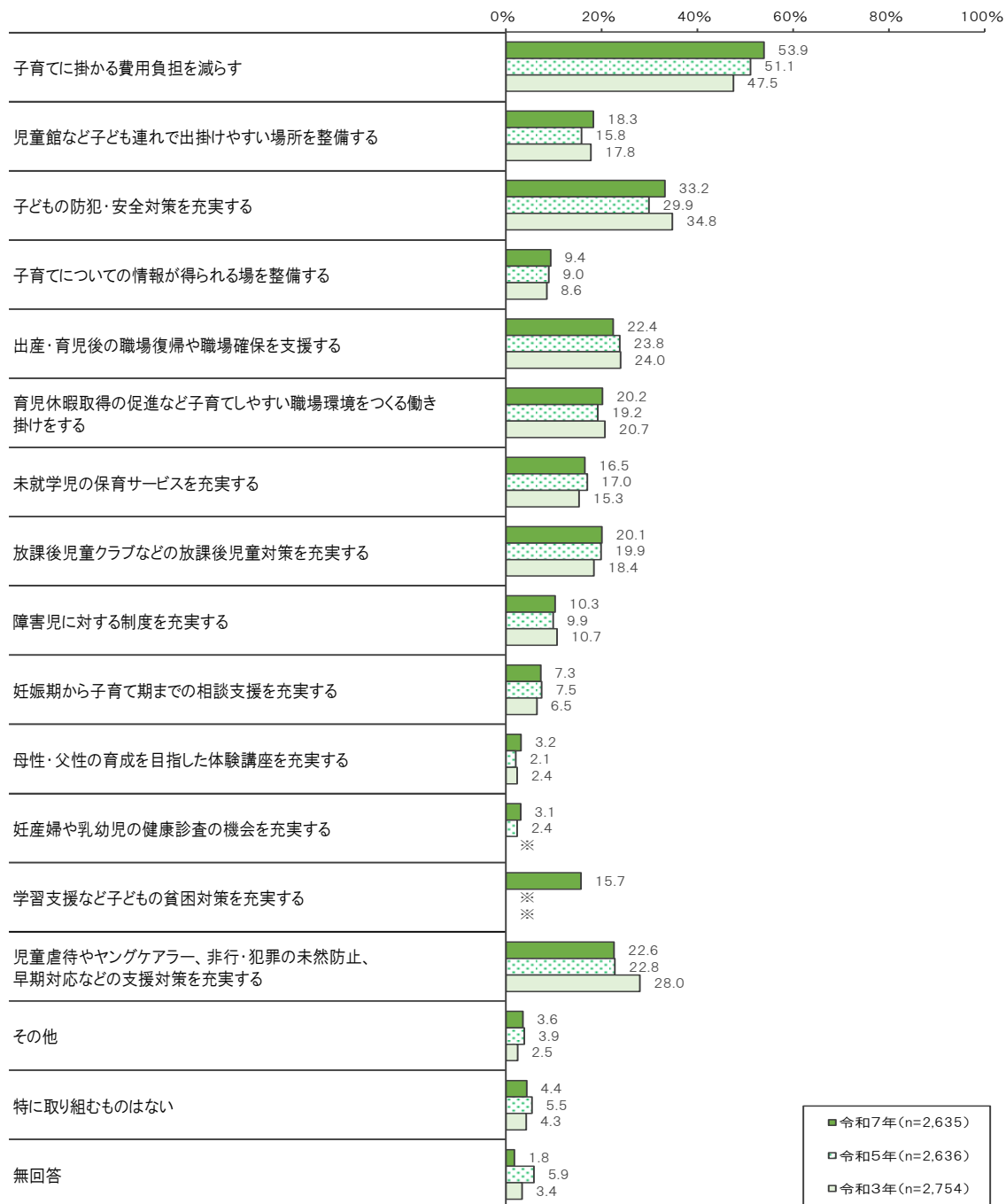
子どもを生み、育てる環境を充実させるために行政が取り組むべきことは、「子育てに掛かる費用負担を減らす」(53.9%)が最も高く、次いで「子どもの防犯・安全対策を充実する」(33.2%)、「児童虐待やヤングケアラー、非行・犯罪の未然防止、早期対応などの支援対策を充実する」(22.6%)の順となっている。【図表 25】

図表 25 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「子どもの防犯・安全対策を充実する」(3.3ポイント増)、「子育てに掛かる費用負担を減らす」(2.8ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「出産・育児後の職場復帰や職場確保を支援する」(1.4ポイント減)などとなっている。【図表 26】

図表 26 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



※調査項目に含まれず

5 健康・福祉について

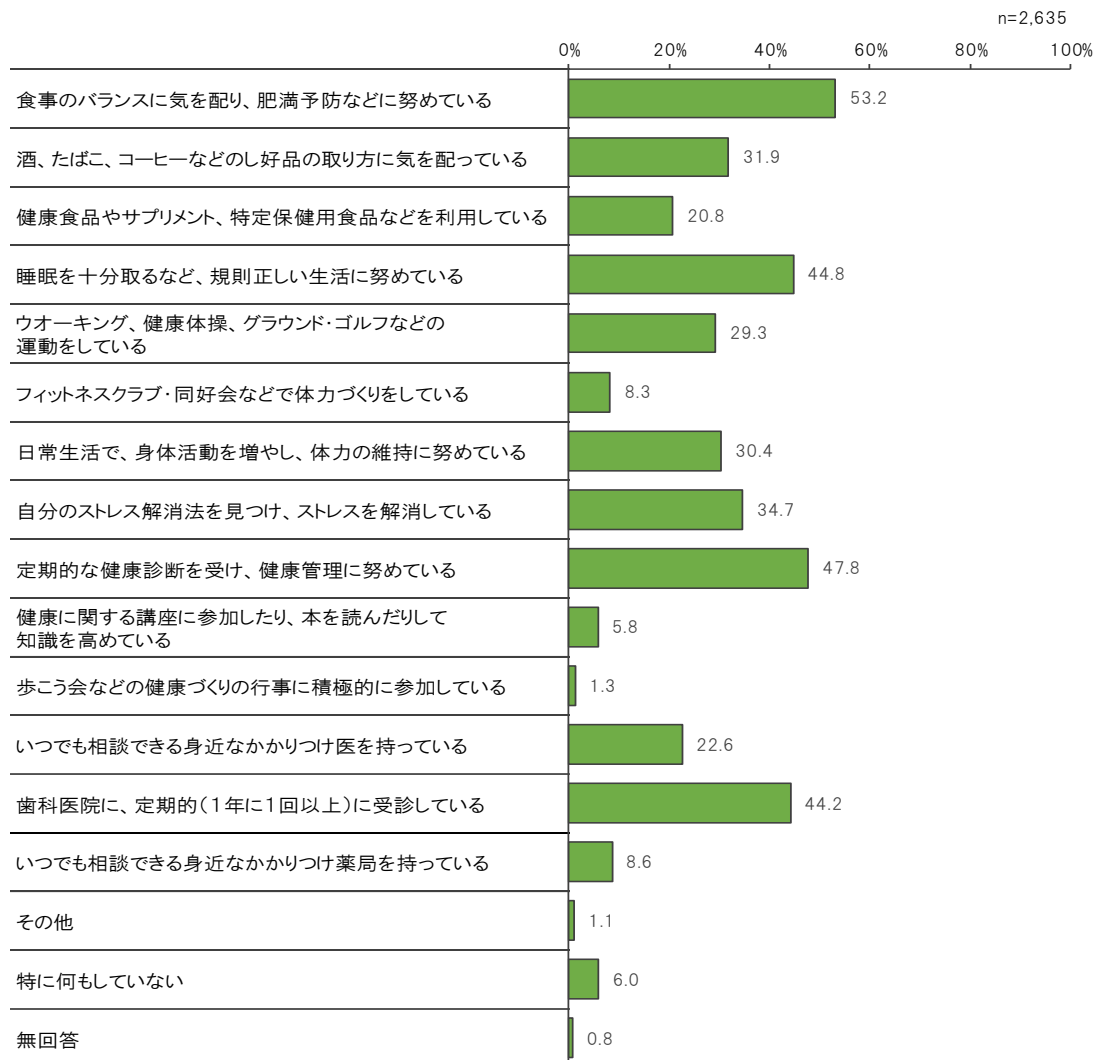
1 健康の維持・増進のための心掛け

問 1 1 あなたは、健康維持や増進のために、日ごろからどのようなことを心掛けていますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ **健康維持や増進のために日ごろから心掛けていることは「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」が53.2%**

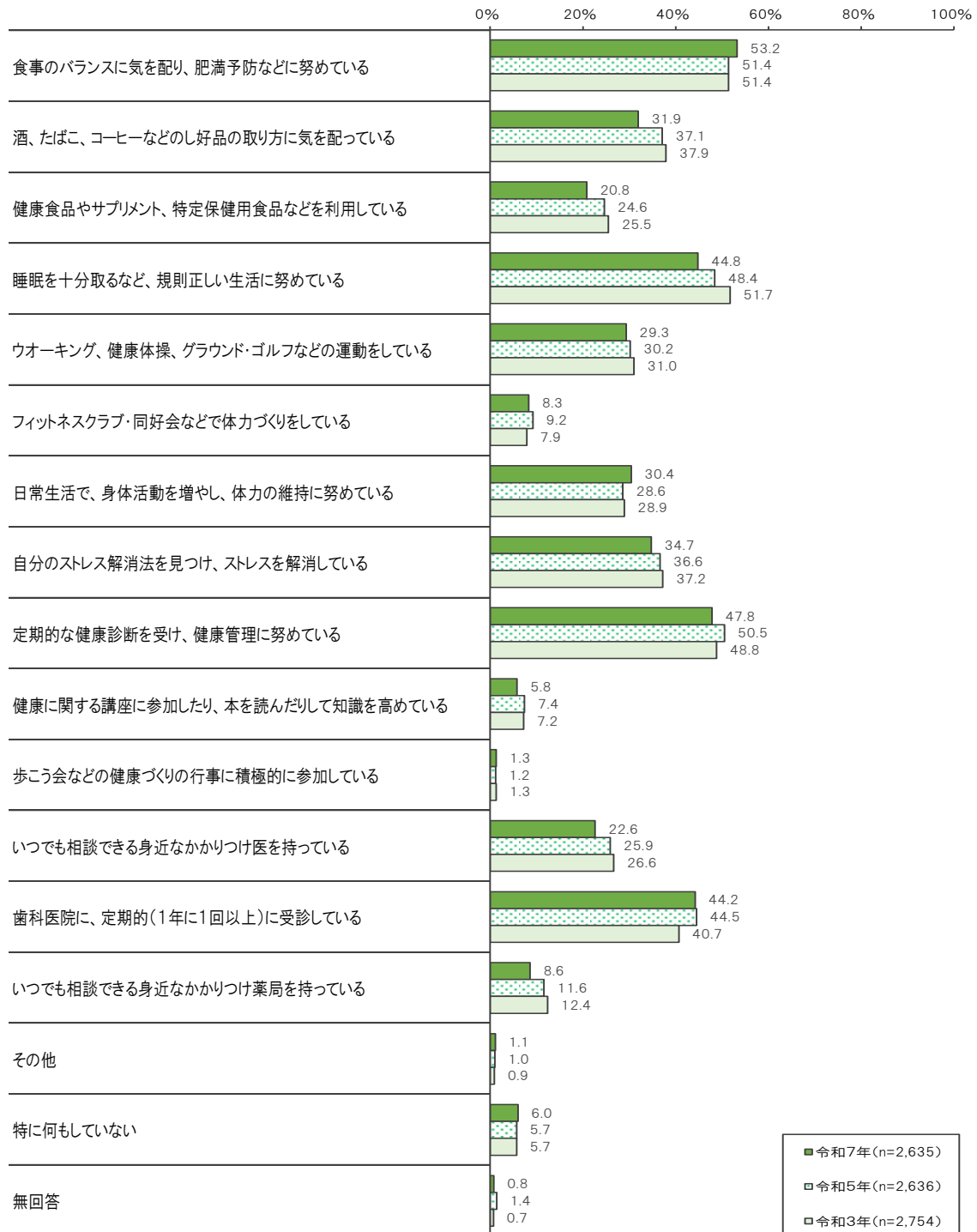
健康維持や増進のために日ごろから心掛けていることは、「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」（53.2%）が最も高く、次いで「定期的な健康診断を受け、健康管理に努めている」（47.8%）、「睡眠を十分取るなど、規則正しい生活に努めている」（44.8%）の順となっている。【図表 27】

図表 27 健康の維持・増進のための心掛け



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」「日常生活で身体活動を増やし、体力の維持に努めている」（いずれも1.8ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「酒、たばこ、コーヒーなどの嗜好品の取り方に気を配っている」（5.2ポイント減）などとなっている。【図表 28】

図表 28 健康の維持・増進のための心掛け（経年比較）



6 建設・整備について

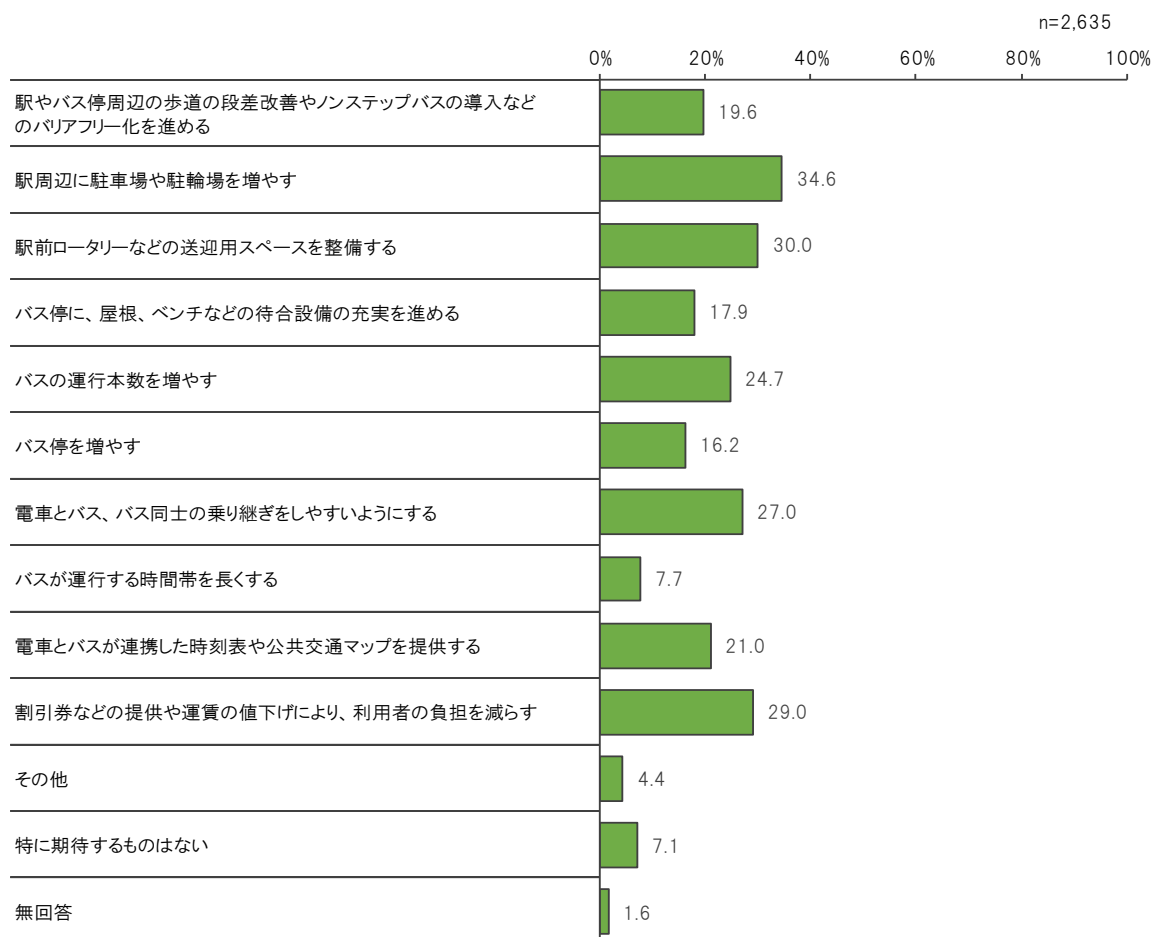
1 公共交通機関の利便性の行政への期待

問 12 あなたは、公共交通機関（電車・バス）の利便性を向上させるために、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ **公共交通機関の利便性向上のために行政に期待することは「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」が34.6%**

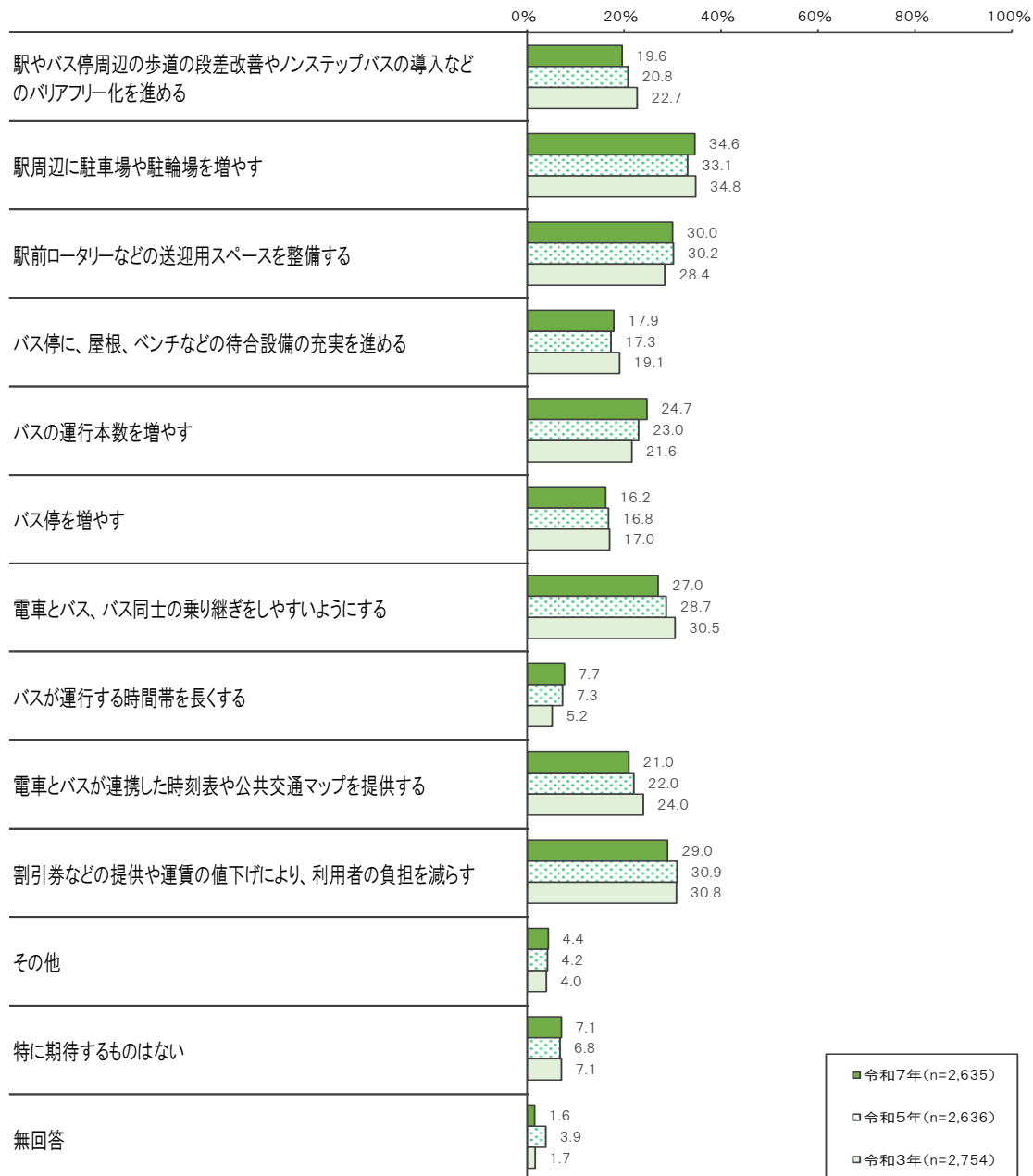
公共交通機関の利便性を向上させるために行政に期待することは、「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」(34.6%) が最も高く、次いで「駅前ロータリーなどの送迎用スペースを整備する」(30.0%)、「割引券などの提供や運賃の値下げにより、利用者の負担を減らす」(29.0%) の順となっている。【図表 29】

図表 29 公共交通機関の利便性の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「バスの運行本数を増やす」（1.7 ポイント増）、「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」（1.5 ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「割引券などの提供や運賃の値下げにより、利用者の負担を減らす」（1.9 ポイント減）、「電車とバス、バス同士の乗り継ぎをしやすいようにする」（1.7 ポイント減）などとなっている。【図表 30】

図表 30 公共交通機関の利便性の行政への期待（経年比較）



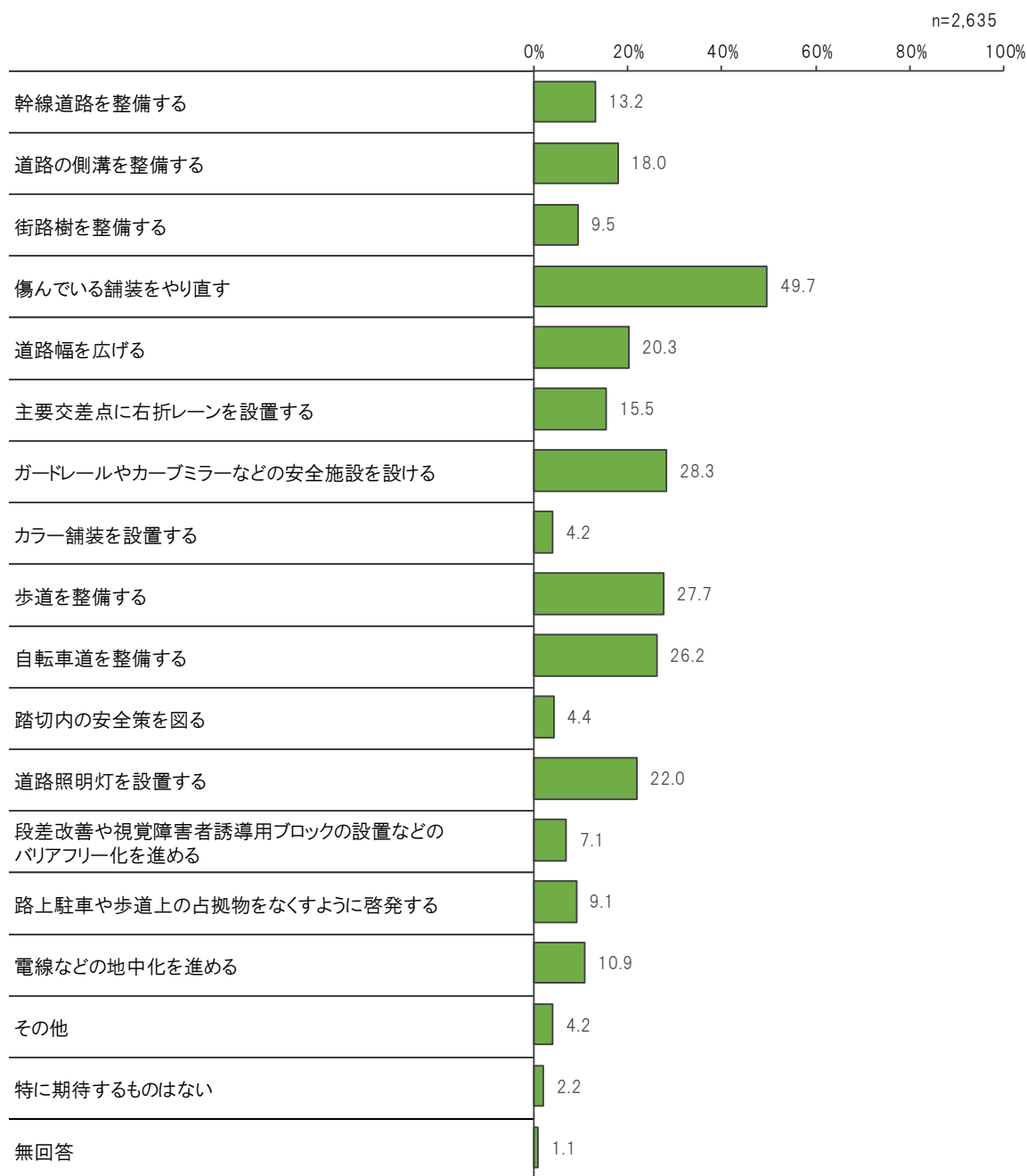
2 道路の整備の行政への期待

問13 あなたは、道路の整備について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 道路の整備について行政に期待することは「傷んでいる舗装をやり直す」が49.7%、「ガードレールやカーブミラーなどの安全施設を設ける」が28.3%

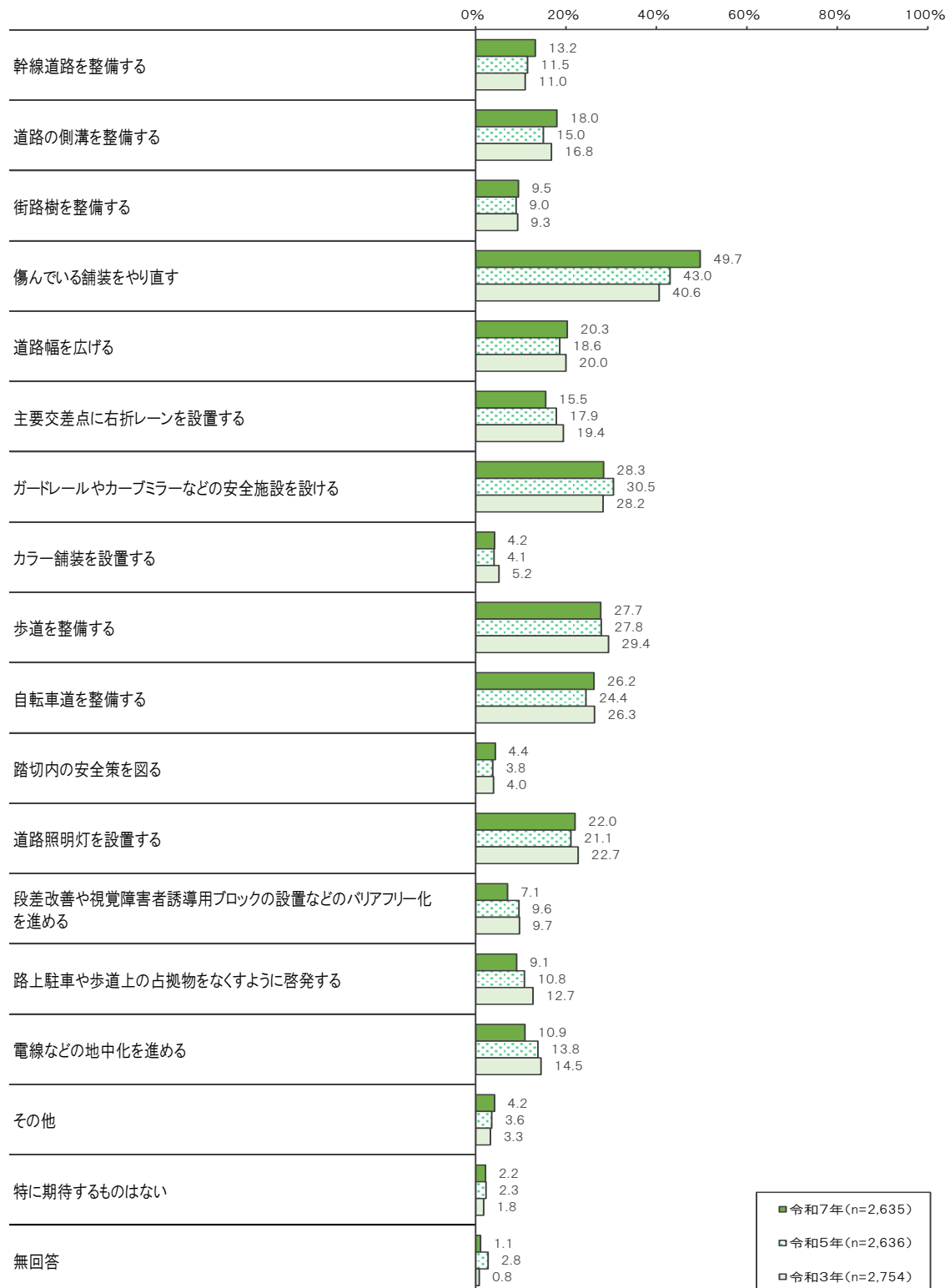
道路の整備について行政に期待することは、「傷んでいる舗装をやり直す」(49.7%)が最も高く、次いで「ガードレールやカーブミラーなどの安全施設を設ける」(28.3%)、「歩道を整備する」(27.7%)となっている。【図表 31】

図表 31 道路の整備の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「傷んでいる舗装をやり直す」(6.7 ポイント増)、「道路の側溝を整備する」(3.0 ポイント増) などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「電線などの地中化を進める」(2.9 ポイント減)、「段差改善や視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を進める」(2.5 ポイント減) などとなっている。【図表 32】

図表 32 道路の整備の行政への期待（経年比較）



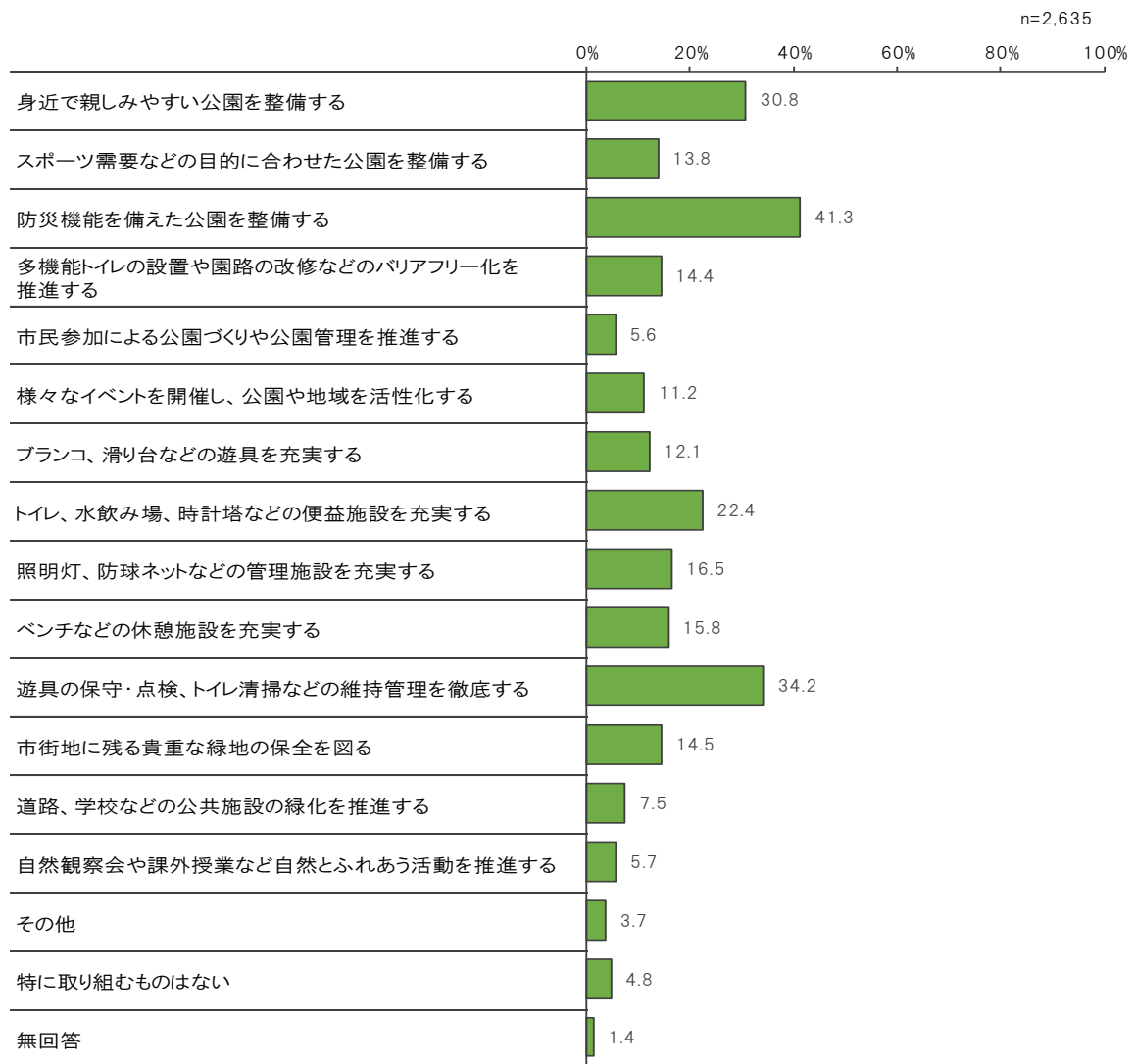
3 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと

問14 あなたは、公園の整備や緑地の保全について、行政がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 公園の整備や緑地の保全について行政が取り組むべきことは「防災機能を備えた公園を整備する」が41.3%、「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」が34.2%

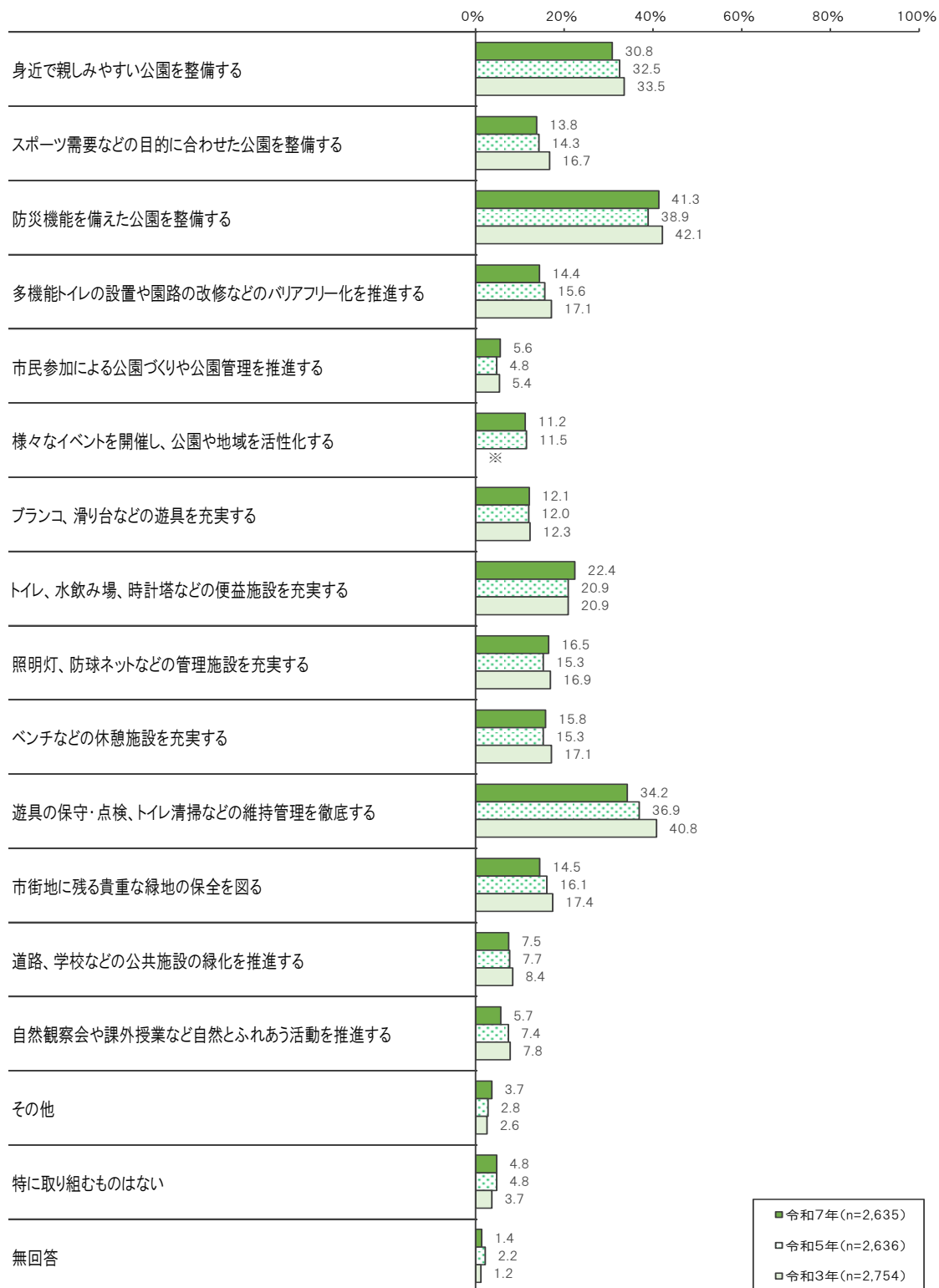
公園の整備や緑地の保全について行政が取り組むべきことは、「防災機能を備えた公園を整備する」(41.3%)が最も高く、次いで「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」(34.2%)、「身近で親しみやすい公園を整備する」(30.8%)の順となっている。【図表 33】

図表 33 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「防災機能を備えた公園を整備する」(2.4 ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」(2.7 ポイント減)などとなっている。
【図表 34】

図表 34 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



※調査項目に含まれず

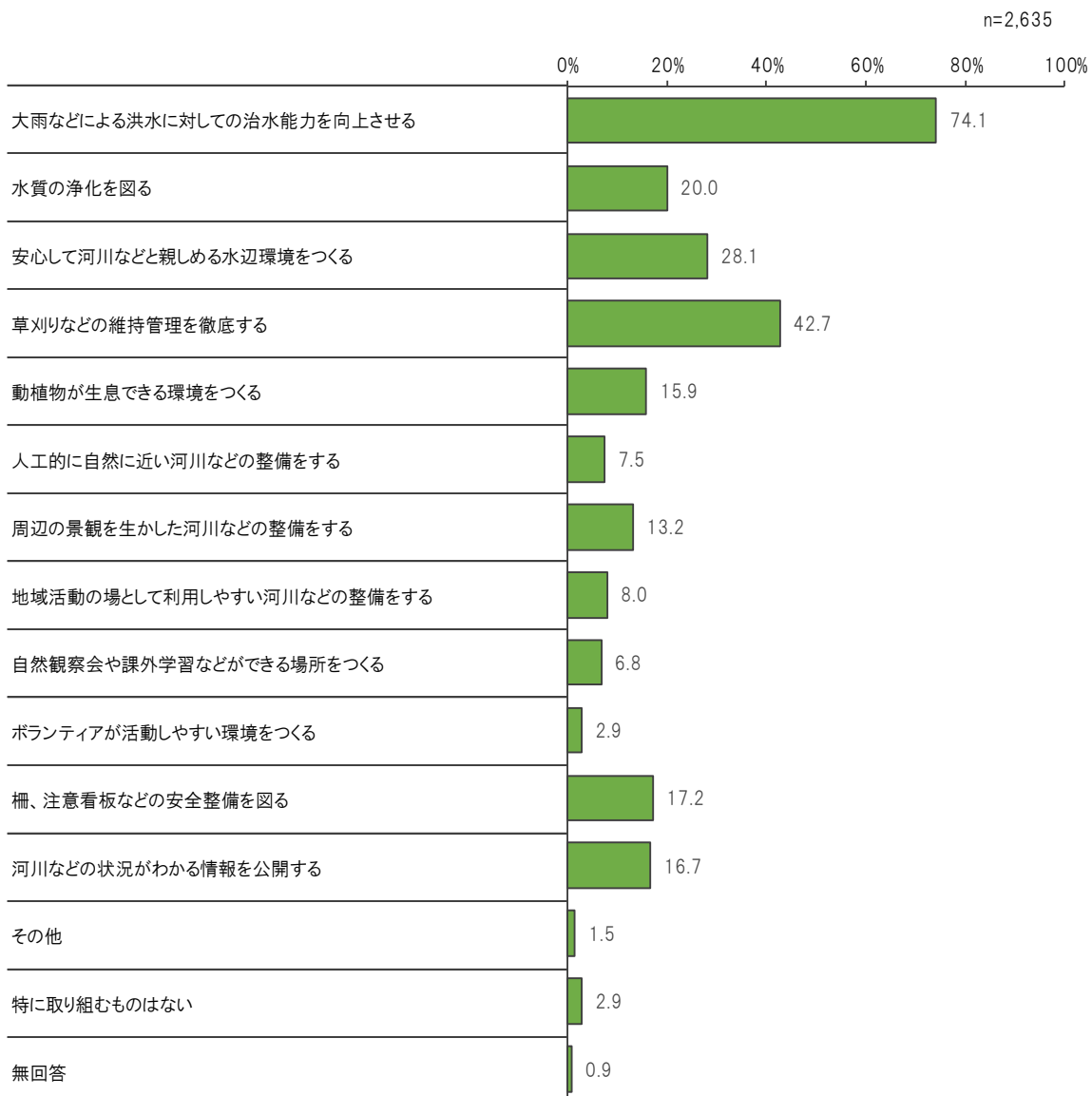
4 河川の整備のために行政が取り組むべきこと

問15 あなたは、河川の整備について、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 河川の整備について行政が取り組むべきことは「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」が74.1%、「草刈りなどの維持管理を徹底する」が42.7%

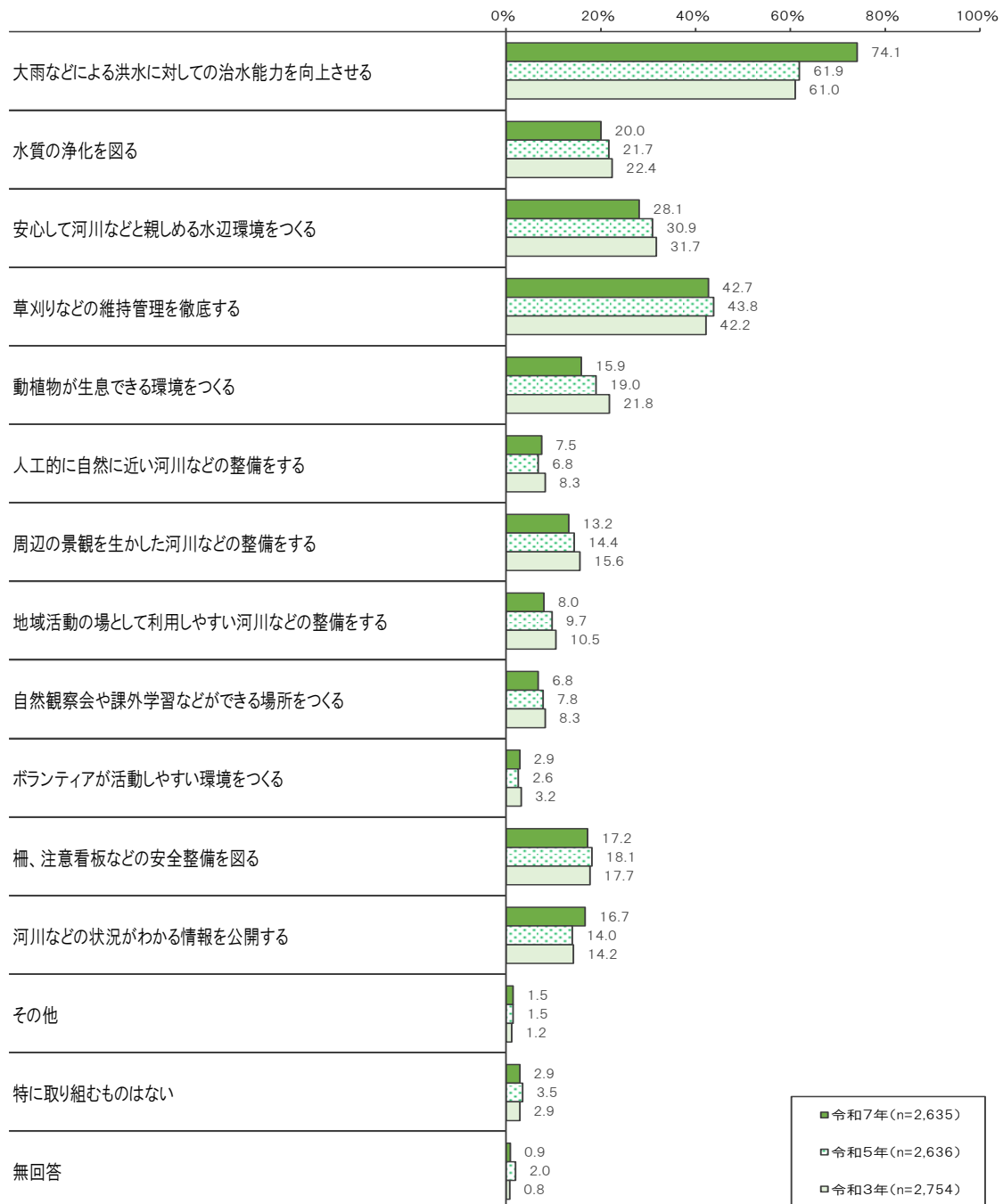
河川の整備について行政が取り組むべきことは、「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」(74.1%)が最も高く、「草刈りなどの維持管理を徹底する」(42.7%)、「安心して河川などと親しめる水辺環境をつくる」(28.1%)の順となっている。【図表 35】

図表 35 河川の整備のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」（12.2 ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「動植物が生息できる環境をつくる」（3.1 ポイント減）、などとなっている。【図表 36】

図表 36 河川の整備のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



7 教育・文化について

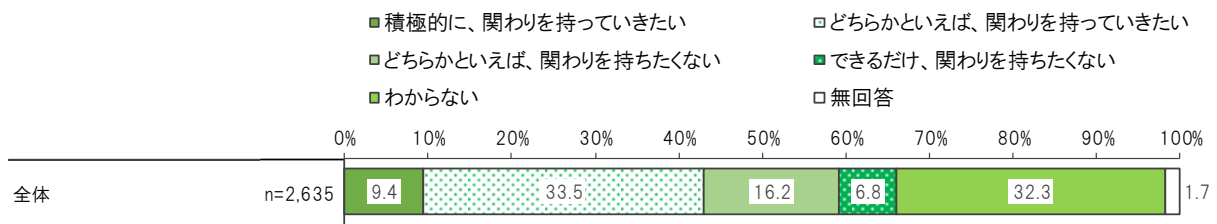
1 地域づくりに向けた学校と地域との関わり

問 16 学校と地域が協力して地域づくりをしていくために、「学校公開日」や「登下校の見守り活動」などを実施しています。あなたは、協力して地域づくりをするために、学校と関わりを持っていききたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 地域づくりに向けた学校と地域との関わりについて“関わりを持っていきいたい”が42.9%、“関わりを持ちたくない”が23.0%

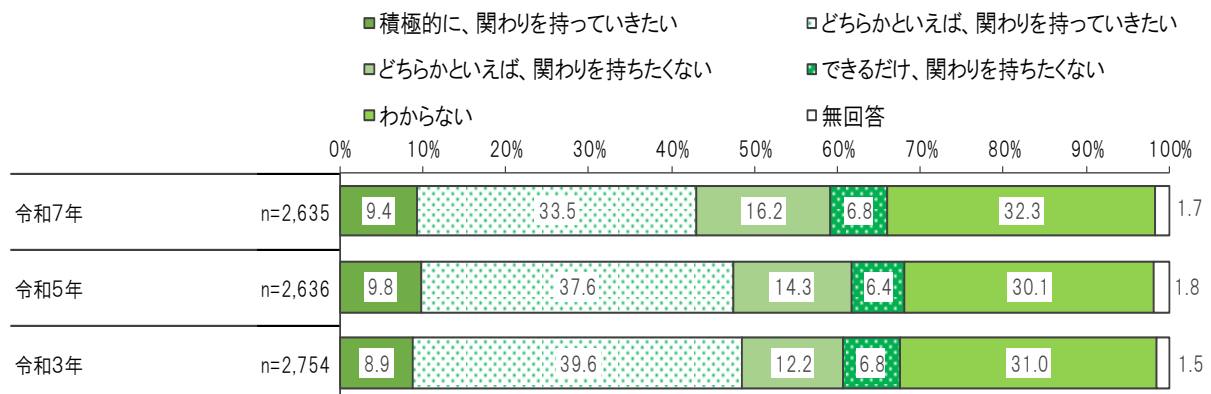
地域づくりに向けた学校と地域との関わりについて、「積極的に、関わりを持っていきいたい」（9.4%）と「どちらかといえば、関わりを持っていきいたい」（33.5%）をあわせた“関わりを持っていきいたい”が42.9%となっている。一方、「どちらかといえば、関わりを持ちたくない」（16.2%）と「できるだけ、関わりを持ちたくない」（6.8%）をあわせた“関わりを持ちたくない”が23.0%となっている。【図表 37】

図表 37 地域づくりに向けた学校と地域との関わり



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「どちらかといえば、関わりを持っていきいたい」（4.1 ポイント減）などとなっている。【図表 38】

図表 38 地域づくりに向けた学校と地域との関わり（経年比較）



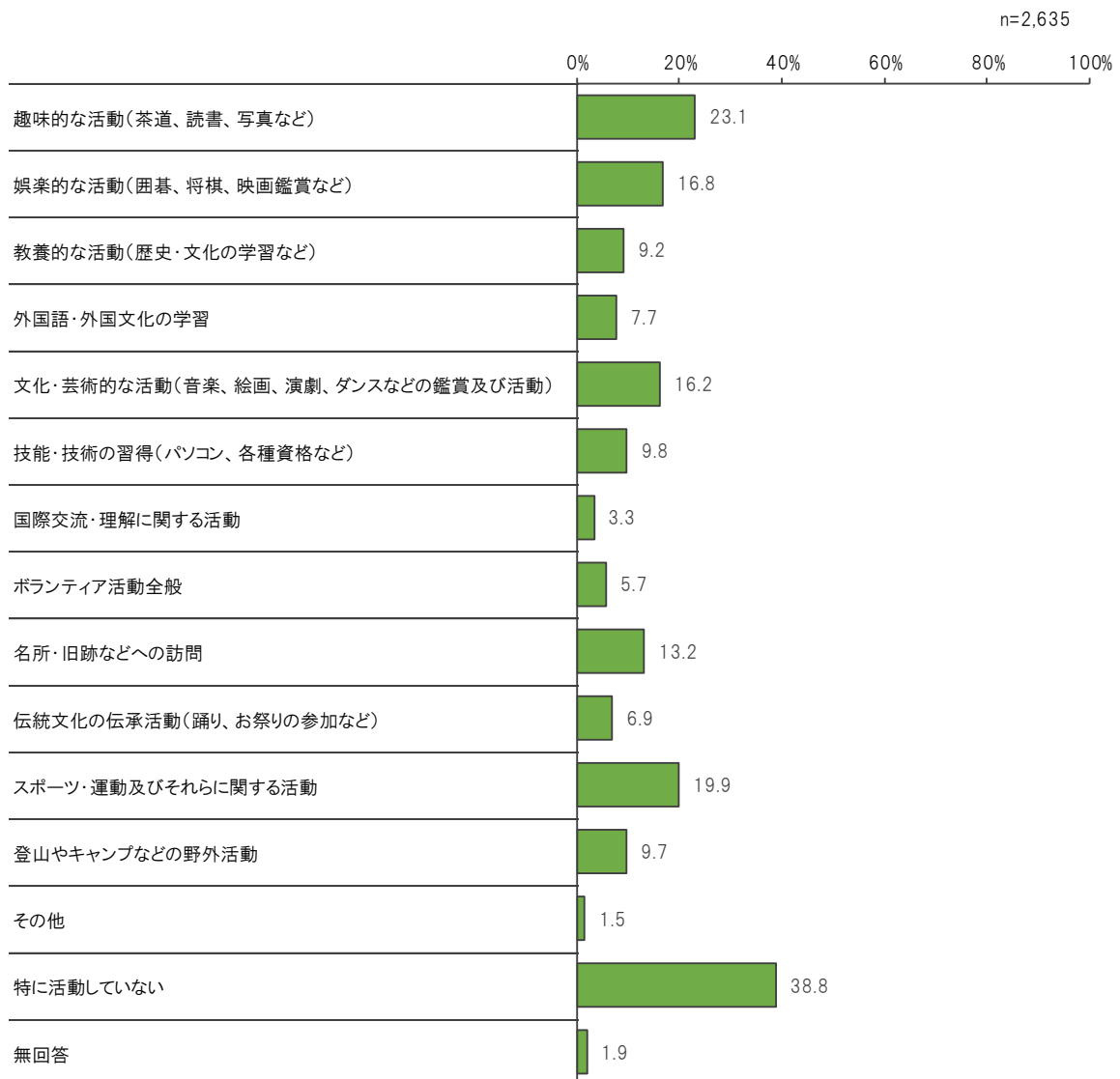
2 生涯学習の活動状況

問17 あなたは、生涯学習としてどのような活動をしていますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 生涯学習の活動状況は「特に活動していない」が38.8%

生涯学習の活動状況は、「特に活動していない」(38.8%)が最も高く、次いで「趣味的な活動(茶道、読書、写真など)」(23.1%)、「スポーツ・運動及びそれらに関する活動」(19.9%)の順となっている。【図表 39】

図表 39 生涯学習の活動状況



3 スポーツや運動の頻度

問18 あなたは、どの程度の頻度でスポーツや運動をしていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。なお、スポーツには、ウォーキング、ハイキング、体操、ダンス、ヨガなども含まれます。

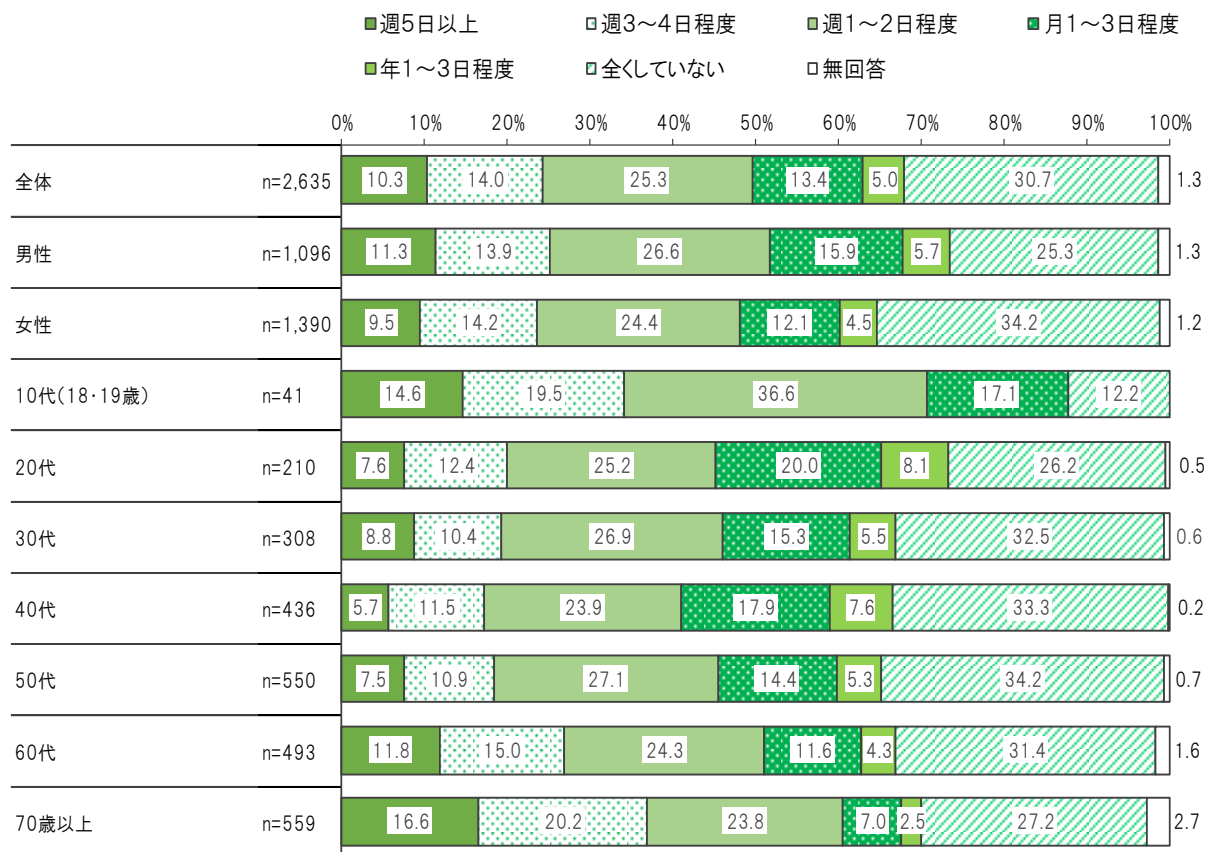
◆ スポーツや運動の頻度は「全くしていない」が30.7%

スポーツや運動の頻度は、「全くしていない」(30.7%)が最も高く、次いで「週1～2日程度」(25.3%)、「週3～4日程度」(14.0%)の順となっている。

性別でみると、「全くしていない」では「女性」(34.2%)が「男性」(25.3%)を8.9ポイント上回っている。

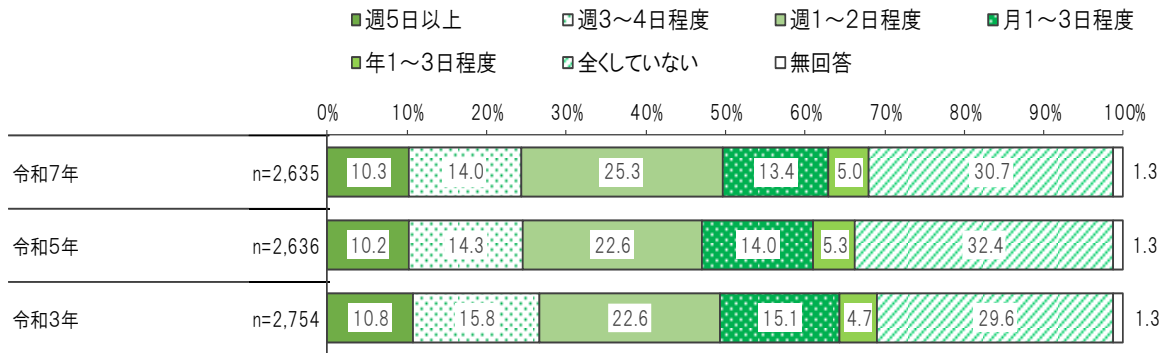
年齢別でみると、全体平均と比較して、「週5日以上」は「70歳以上」が16.6%と高く、「40代」(5.7%)は低くなっている。一方、「全くしていない」は、「50代」(34.2%)の割合が高く、「10代(18・19歳)」(12.2%)、「20代」(26.2%)の割合が低くなっている。【図表40】

図表40 スポーツや運動の頻度



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「週 1～2 日程度」（2.7 ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「全くしていない」（1.7 ポイント減）などとなっている。【図表 41】

図表 41 スポーツや運動の頻度（経年比較）



※「週 5 日以上」について、前回調査までは「毎日」と表記

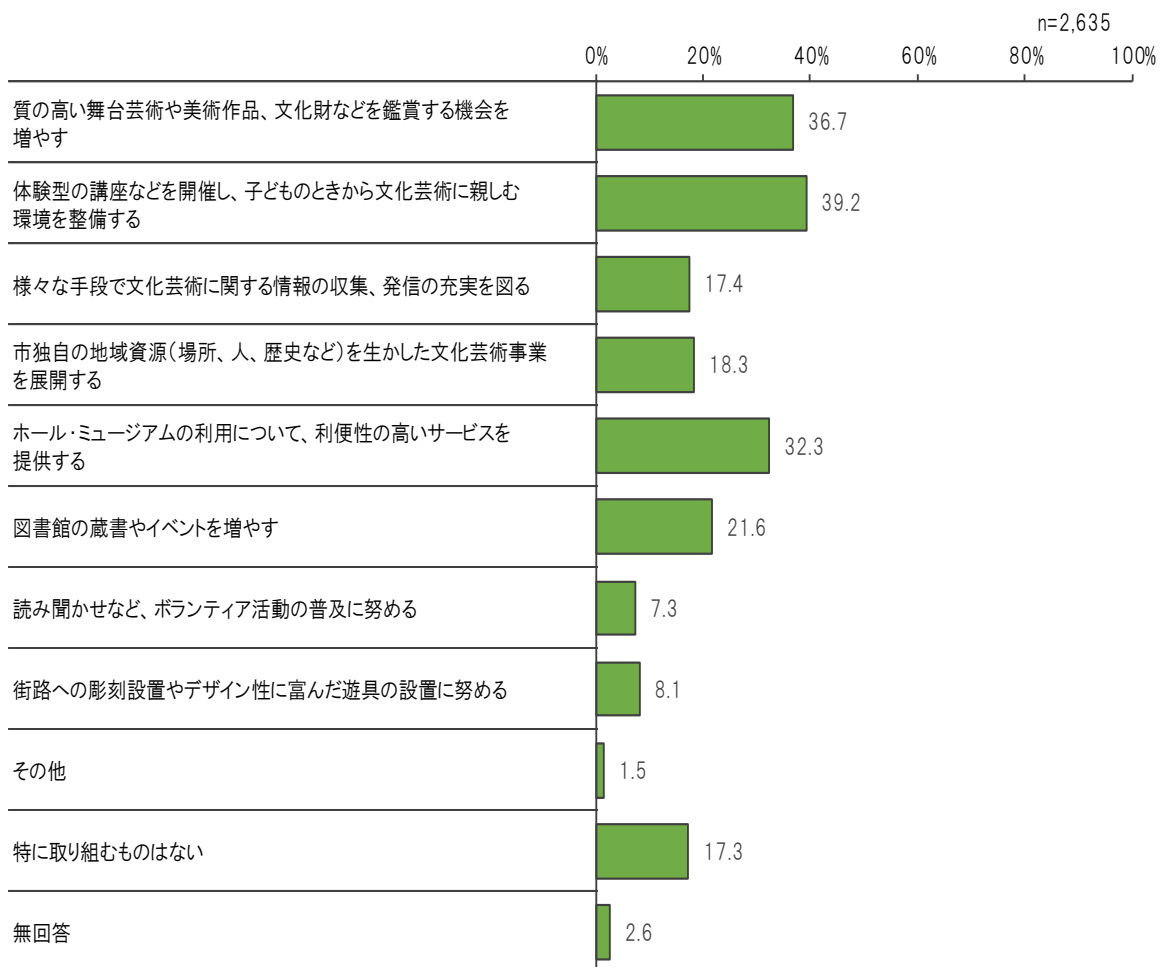
4 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきこと

問19 あなたは、文化・芸術の振興のために、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきことは「体験型の講座などを開催し、子どものときから文化芸術に親しむ環境を整備する」が39.2%

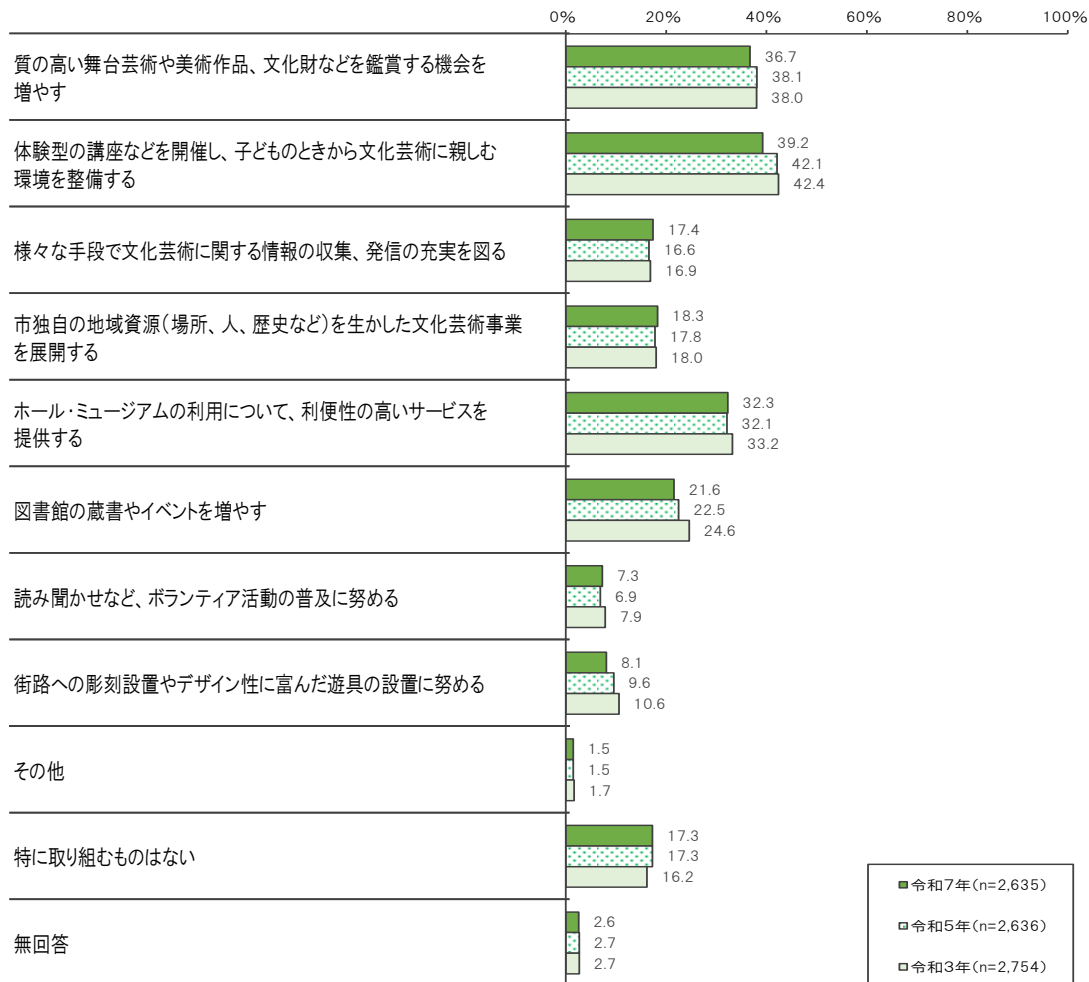
文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきことは、「体験型の講座などを開催し、子どものときから文化芸術に親しむ環境を整備する」(39.2%)が最も高く、次いで「質の高い舞台芸術や美術作品、文化財などを鑑賞する機会を増やす」(36.7%)、「ホール・ミュージアムの利用について、利便性の高いサービスを提供する」(32.3%)の順となっている。【図表 42】

図表 42 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「様々な手段で文化芸術に関する情報の収集、発信の充実を図る」(0.8ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「体験型の講座などを開催し、子どものときから文化芸術に親しむ環境を整備する」(2.9ポイント減)などとなっている。【図表 43】

図表 43 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



8 産業・雇用について

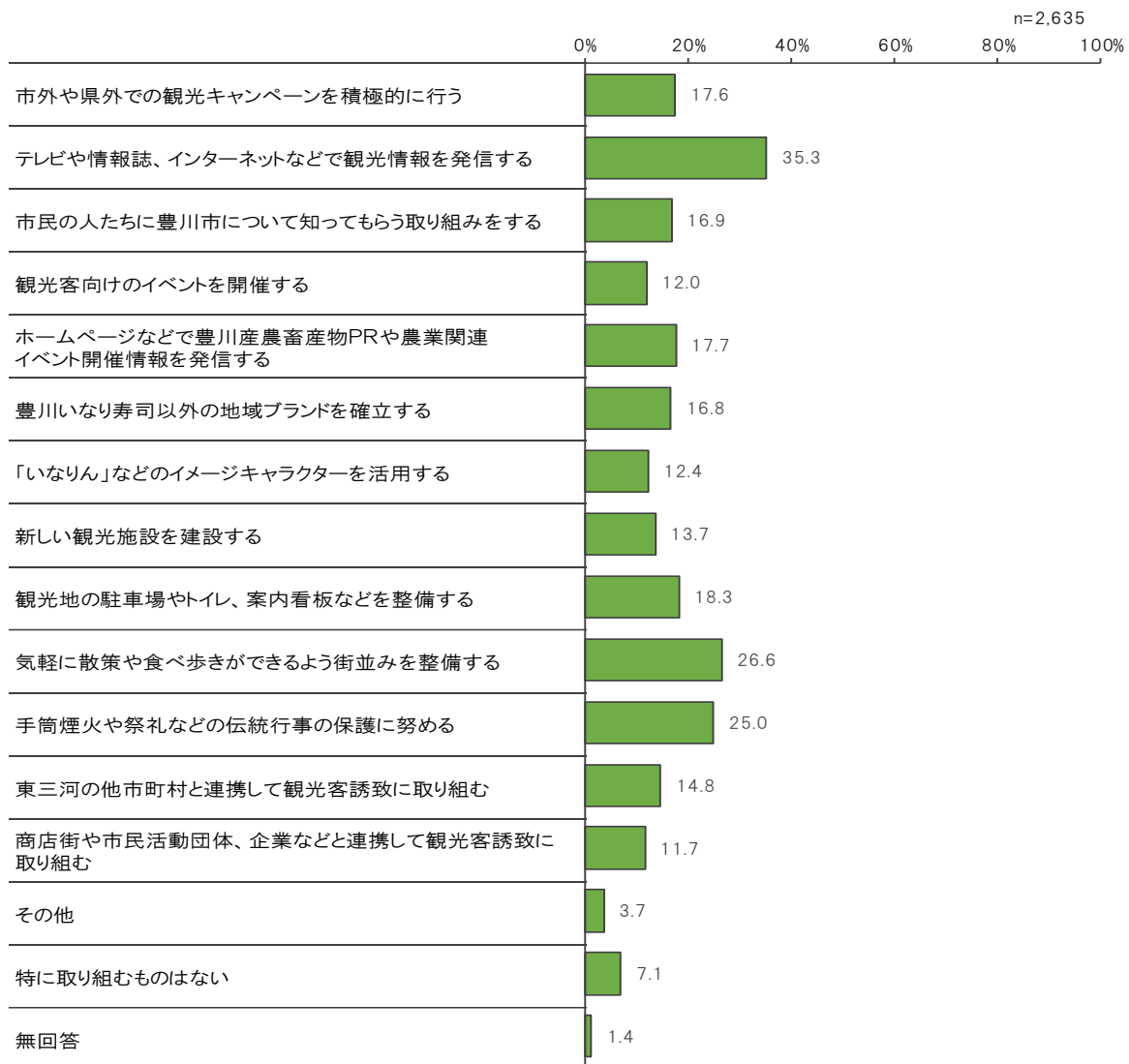
1 観光客増加のために取り組むべきこと

問20 あなたは、多くの観光客の方に豊川市に来ていただくために、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 観光客増加のために取り組むべきことは「テレビや情報誌、インターネットなどで観光情報を発信する」が35.3%

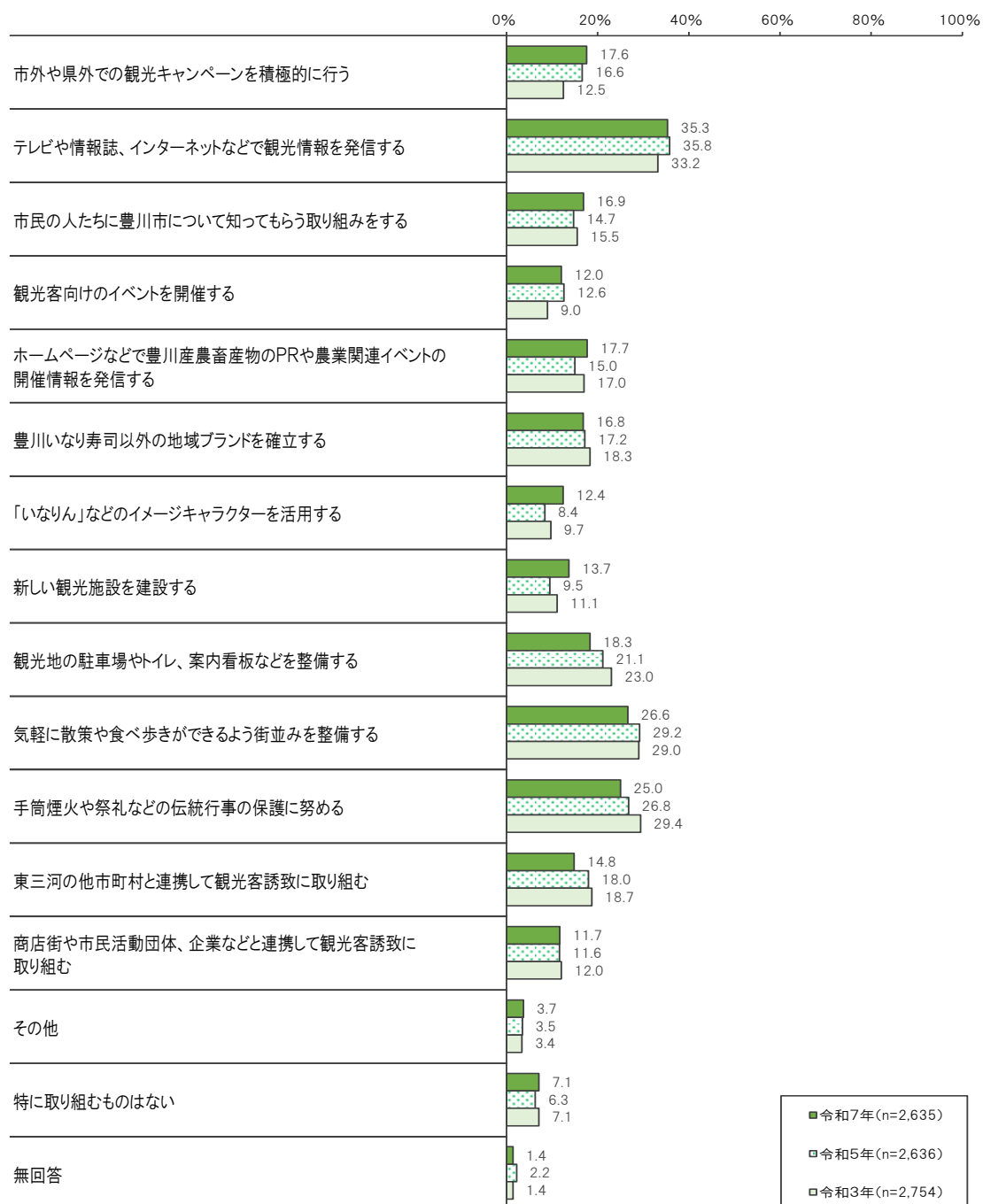
観光客増加のために取り組むべきことは、「テレビや情報誌、インターネットなどで観光情報を発信する」(35.3%)が最も高く、次いで「気軽に散策や食べ歩きができるよう街並みを整備する」(26.6%)、「手筒煙火や祭礼などの伝統行事の保護に努める」(25.0%)、「観光地の駐車場やトイレ、案内看板などを整備する」(18.3%)の順となっている。【図表 44】

図表 44 観光客増加のために取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「新しい観光施設を建設する」(4.2 ポイント増)、「「いなりん」などのイメージキャラクターを活用する」(4.0 ポイント増)、「ホームページなどで豊川産農畜産物のPRや農業関連イベントの開催情報を発信する」(2.7 ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「東三河の他市町村と連携して観光客誘致に取り組む」(3.2 ポイント減)、「観光地の駐車場やトイレ、案内看板などを整備する」(2.8 ポイント減)などとなっている。【図表 45】

図表 45 観光客増加のために取り組むべきこと（経年比較）



9 地域・行政について

1 まちづくり活動への参加状況

問21 あなたは、まちづくり活動（町内会・お祭りなどの地域活動、NPO活動、ボランティア・市民活動など）に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

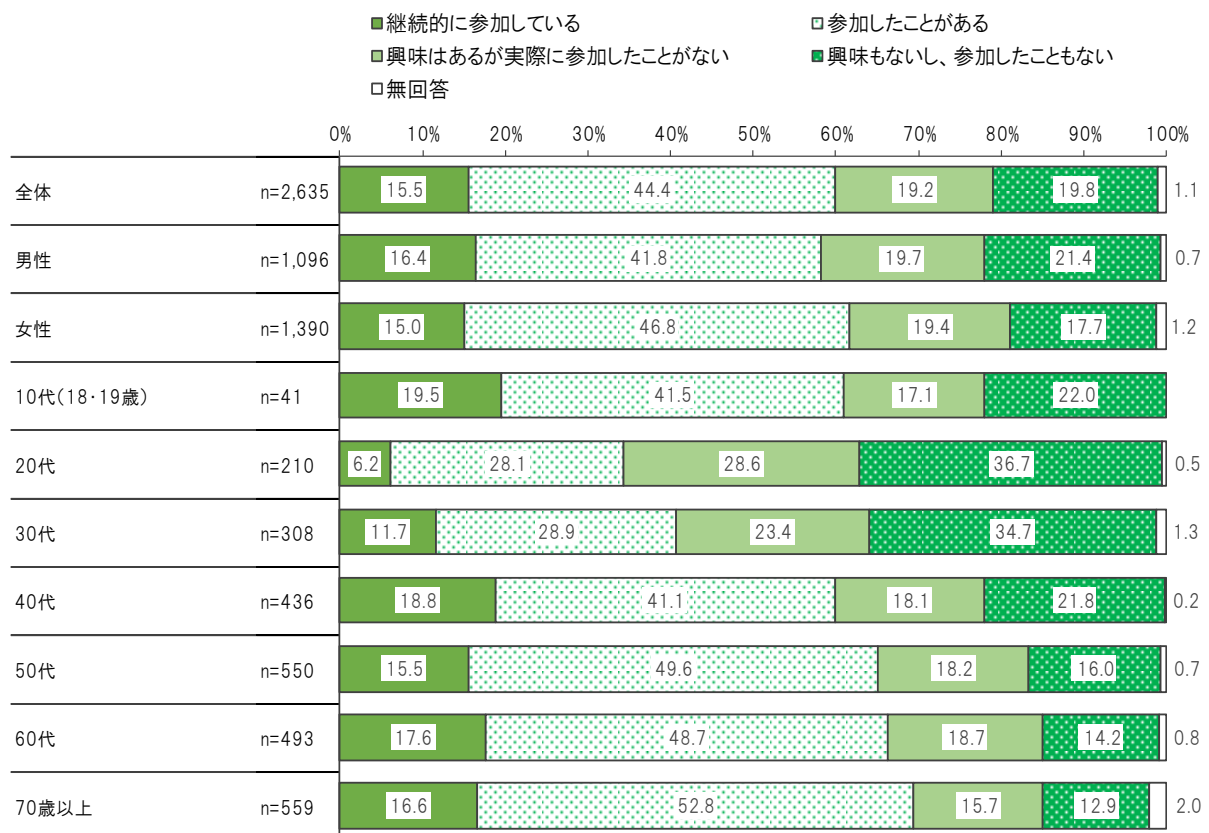
◆ まちづくり活動への参加状況は“参加したことがある”が59.9%、“参加したことがない”が39.0%

まちづくり活動への参加状況は、「継続的に参加している」（15.5%）と「参加したことがある」（44.4%）をあわせた“参加したことがある”は59.9%、「興味はあるが実際に参加したことがない」（19.2%）と「興味もないし、参加したこともない」（19.8%）をあわせた“参加したことがない”は39.0%となっている。

性別でみると、最も差がある項目「参加したことがある」では「女性」（46.8%）が「男性」（41.8%）を5.0ポイント上回っている。

年齢別でみると、「20代」、「30代」では“参加したことがない”の割合が“参加したことがある”を上回っている。【図表 46】

図表 46 まちづくり活動への参加状況



2 男女共同参画

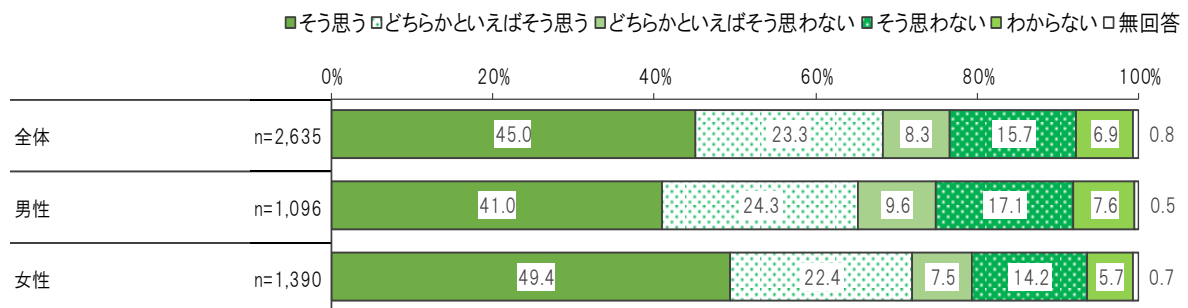
問22 あなたは、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担について見直すべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 「男は仕事、女は家庭」という考え方を“見直すべき（そう思う）”が68.3%、“そう思わない”が24.0%

「男は仕事、女は家庭」という考え方を見直すべきかについて「そう思う」（45.0%）と「どちらかといえばそう思う」（23.3%）をあわせた“見直すべき（そう思う）”が68.3%、「どちらかといえばそう思わない」（8.3%）と「そう思わない」（15.7%）をあわせた“そう思わない”が24.0%となっている。

性別でみると、“見直すべき（そう思う）”では「女性」（71.8%）が「男性」（65.3%）を6.5ポイント上回っている。【図表 47】

図表 47 男女共同参画



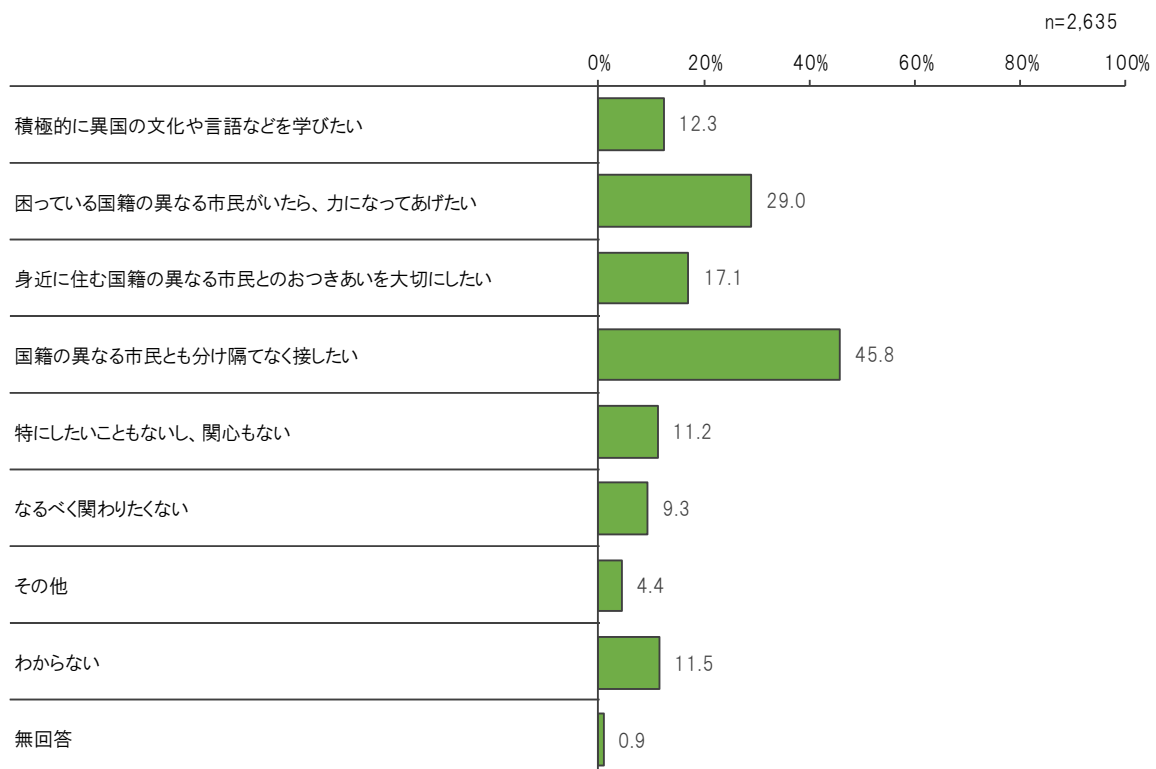
3 外国人とのつきあい方

問23 現在、豊川市には、多くの外国人市民が暮らしています。日本人と外国人が、同じ豊川市民として快適に暮らしていける多文化共生社会にするために、あなたは、どのようなことができると思いますか。次の中からあてはまるものを2つまで選んで○印をつけてください。

◆ 外国人とのつきあい方は「国籍の異なる市民とも分け隔てなく接したい」が45.8%

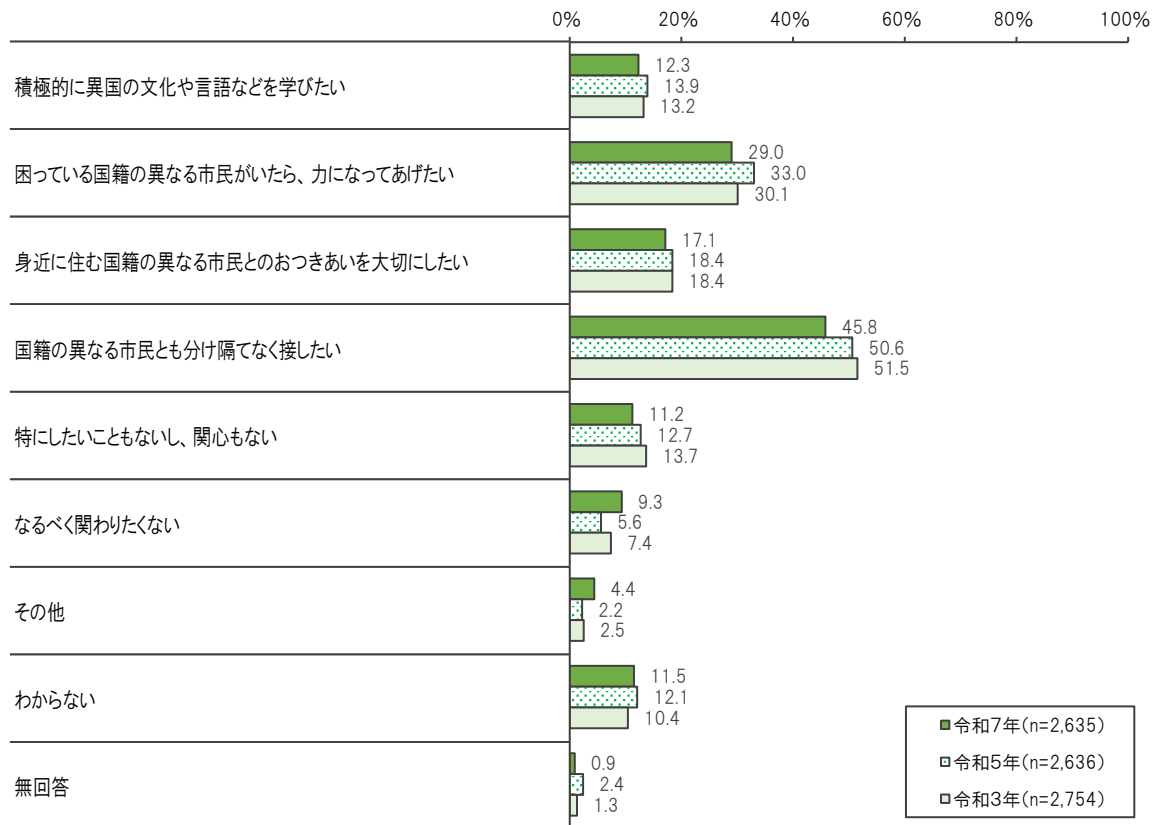
外国人とのつきあい方は「国籍の異なる市民とも分け隔てなく接したい」(45.8%)が最も高く、次いで「困っている国籍の異なる市民がいたら、力になってあげたい」(29.0%)、「身近に住む国籍の異なる市民とのおつきあいを大切にしたい」(17.1%)の順となっている。【図表 48】

図表 48 外国人とのつきあい方



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「なるべく関わりたくない」（3.7ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「国籍の異なる市民とも分け隔てなく接したい」（4.8ポイント減）などとなっている。【図表 49】

図表 49 外国人とのつきあい方（経年比較）



4 広報紙等の閲読率

問24 あなたは、市が配付している広報紙（毎月1日発行）や議会だより（6月・8月・11月・2月に発行。広報紙に折り込み）などをどの程度読んでいますか。次の中からそれぞれにあてはまるものを1つずつ選んで○印をつけてください。

①広報とよかわ

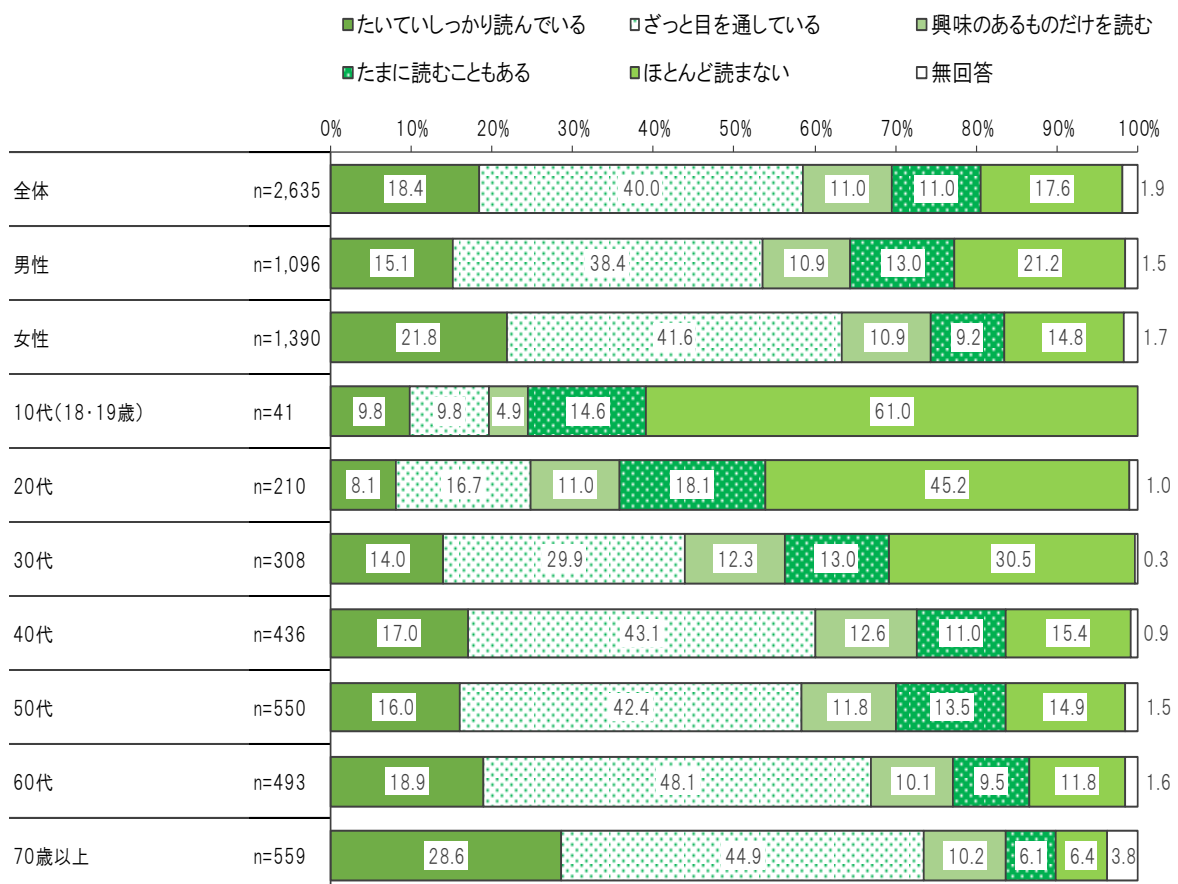
◆ 広報とよかわの閲読率は「ざっと目を通して」が40.0%、「たいていしっかり読んでいる」が18.4%

広報とよかわの閲読率は「ざっと目を通して」(40.0%)が最も高く、次いで「たいていしっかり読んでいる」(18.4%)、「ほとんど読まない」(17.6%)、「興味のあるものだけを読む」、「たまに読むこともある」(いずれも11.0%)の順となっている。

性別でみると、「たいていしっかり読んでいる」では「女性」(21.8%)が「男性」(15.1%)を6.7ポイント上回っている。

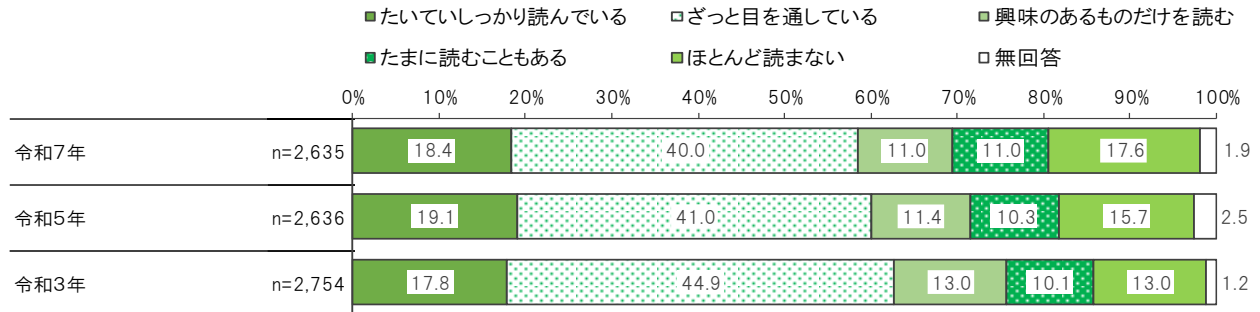
年齢別でみると、「たいていしっかり読んでいる」と「ざっと目を通して」を合わせた“ひと通り読んでいる”では、「40代」から「70歳以上」で50%を上回っている。また、「ほとんど読まない」では「10代(18・19歳)」(61.0%)と「70歳以上」(6.4%)の差が54.6ポイントと大きくなっている。【図表50】

図表 50 広報紙等の閲読率「広報とよかわ」



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「ほとんど読まない」（1.9 ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「ざっと目を通している」（1.0 ポイント減）などとなっている。【図表 51】

図表 51 広報紙等の読読率「広報とよかわ」（経年比較）



②議会だより

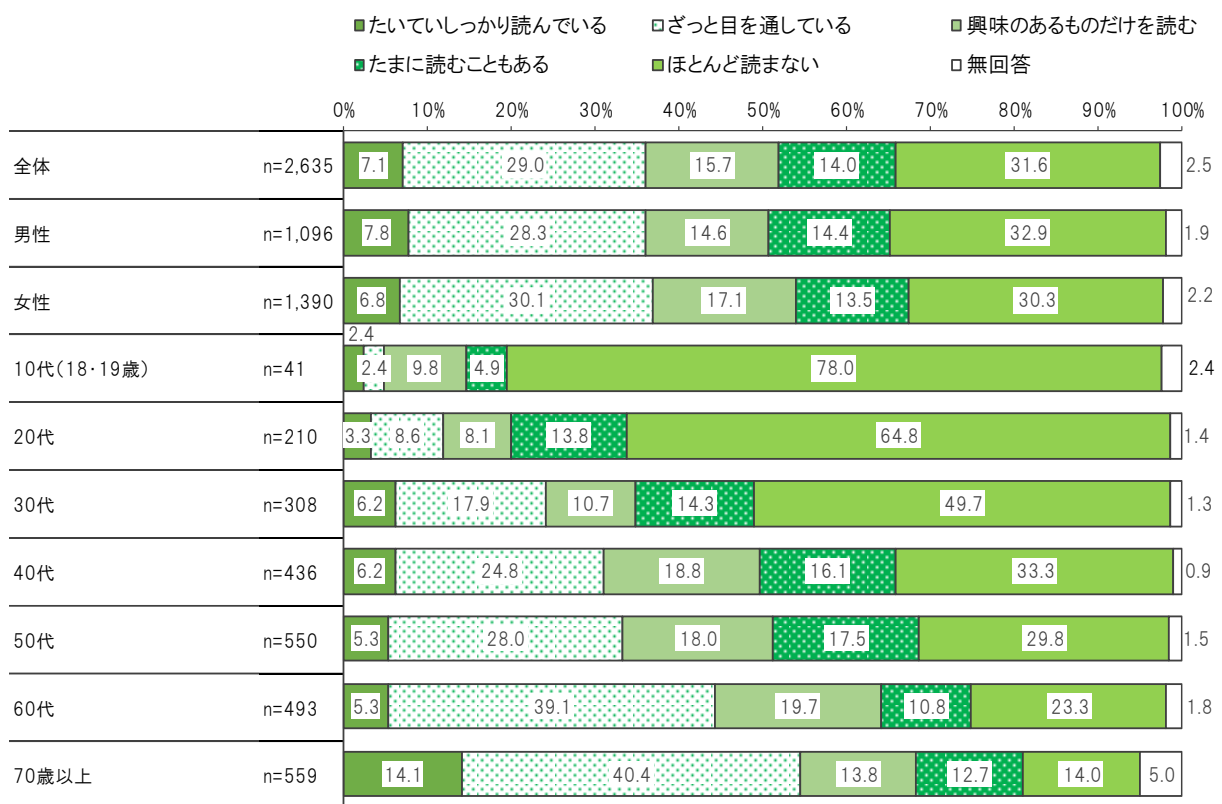
◆ 議会だよりの読読率は「ほとんど読まない」が31.6%、「ざっと目を通して」が29.0%

議会だよりの読読率は「ほとんど読まない」(31.6%)が最も高く、次いで「ざっと目を通して」(29.0%)、「興味のあるものだけを読む」(15.7%)、「たまに読むこともある」(14.0%)、「たいていしっかり読んでいる」(7.1%)の順となっている。

性別による大きな差はみられない。

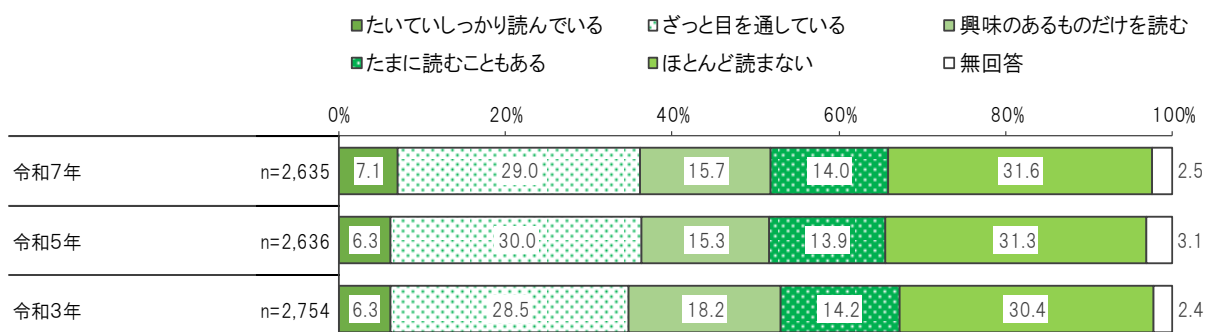
年齢別でみると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」と「ざっと目を通して」をあわせた“ひと通り読んでいる”割合が高くなっている。また、「ほとんど読まない」では「10代(18・19歳)」(78.0%)と「70歳以上」(14.0%)との差が64.0ポイントと大きくなっている。【図表 52】

図表 52 広報紙等の読読率「議会だより」



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「たいていしっかり読んでいる」(0.8ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「ざっと目を通して」(1.0ポイント減)などとなっている。【図表 53】

図表 53 広報紙等の読読率「議会だより」(経年比較)



③その他のお知らせ

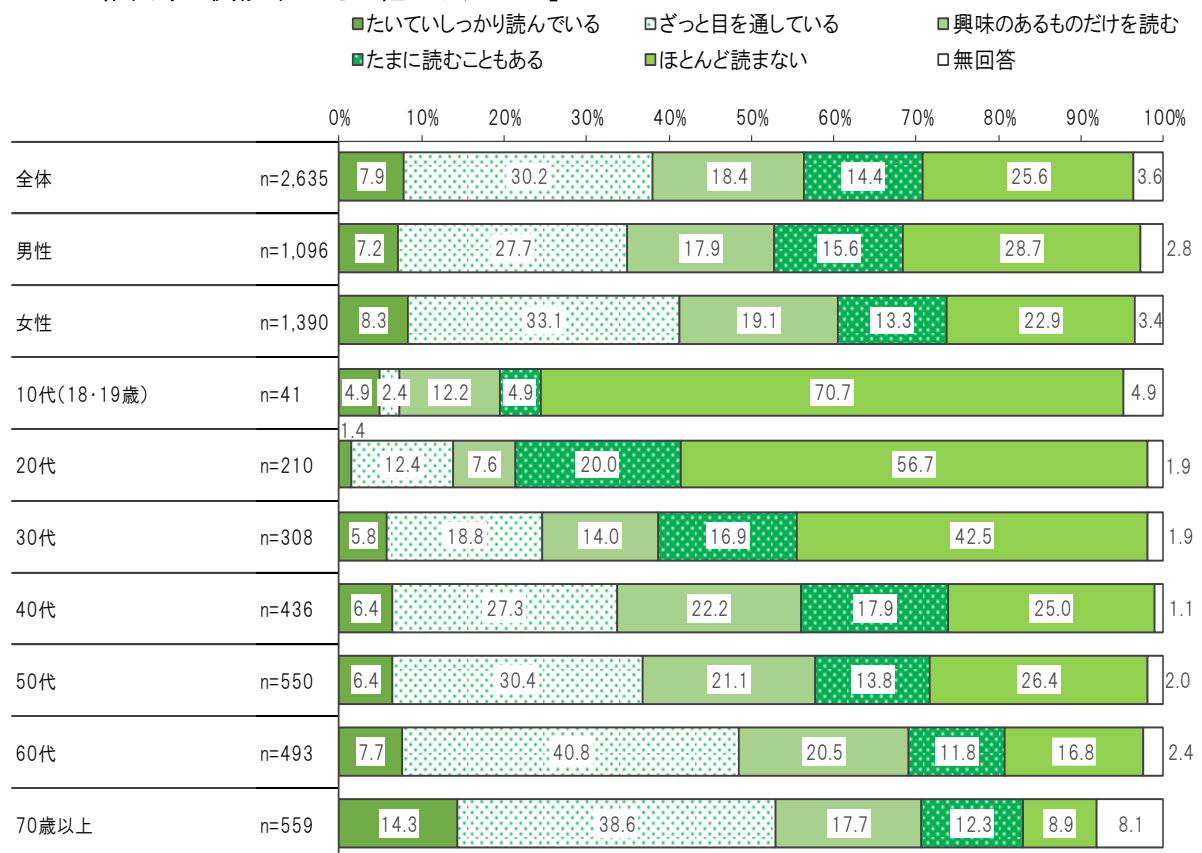
◆ その他のお知らせの閲読率は「ざっと目を通して」30.2%、「ほとんど読まない」25.6%

その他のお知らせの閲読率は「ざっと目を通して」(30.2%) が最も高く、次いで「ほとんど読まない」(25.6%)、「興味のあるものだけを読む」(18.4%)、「たまに読むこともある」(14.4%)、「たいていしっかり読んでいる」(7.9%) の順となっている。

性別でみると、「ほとんど読まない」では「男性」(28.7%) が「女性」(22.9%) を 5.8 ポイント上回っている。

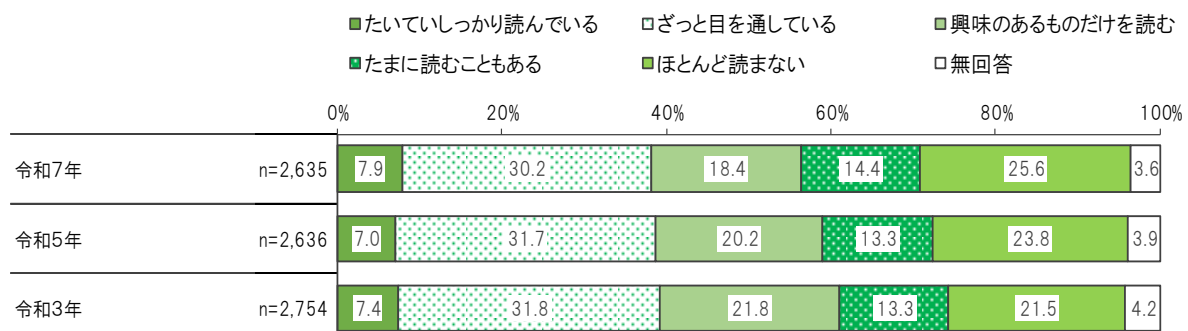
年齢別でみると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」と「ざっと目を通して」を合わせた“ひと通り読んでいる”割合が高くなっている。また、「ほとんど読まない」では「10代(18・19歳)」(70.7%) と「70歳以上」(8.9%) との差が 61.8 ポイントと大きくなっている。【図表 54】

図表 54 広報紙等の閲読率「その他のお知らせ」



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「ほとんど読まない」(1.8 ポイント増) などとなっている。【図表 55】

図表 55 広報紙等の閲読率「その他のお知らせ」(経年比較)



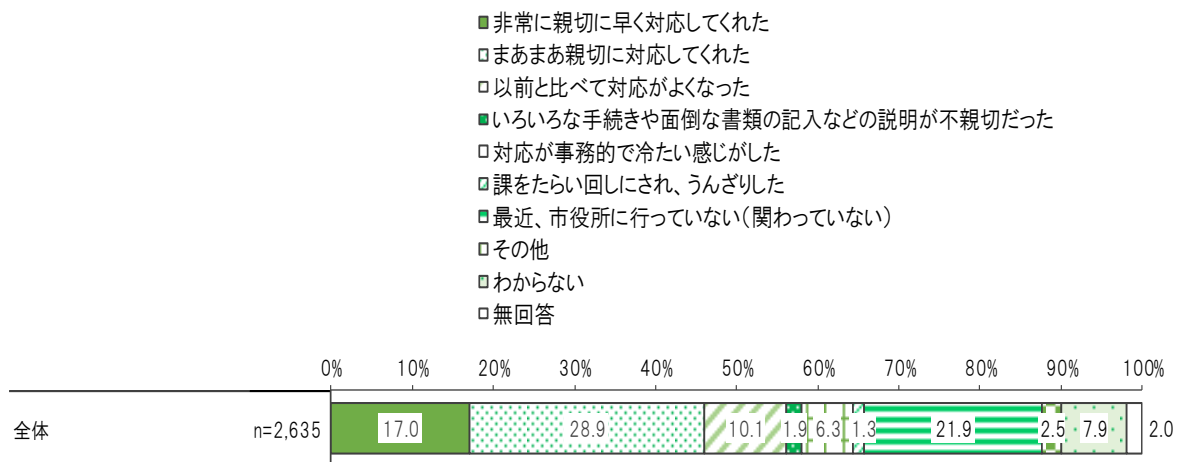
5 市の職員の対応への評価

問25 あなたは最近、市の職員の対応についてどのように感じましたか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 市の職員の対応への評価は「まあまあ親切に対応してくれた」が28.9%

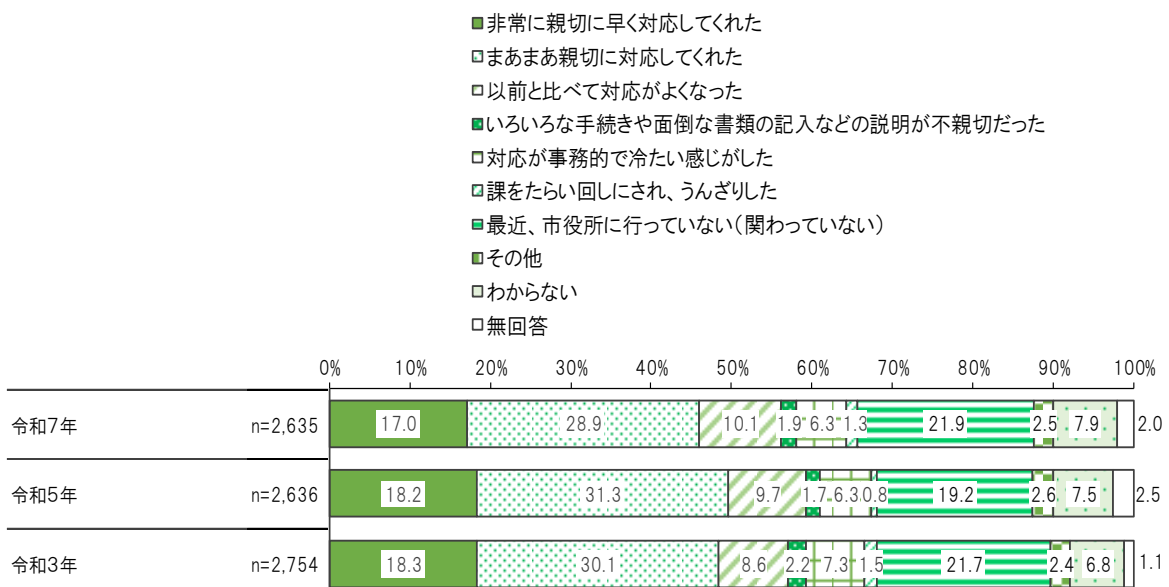
市の職員の対応への評価は「まあまあ親切に対応してくれた」(28.9%)が最も高く、次いで「最近、市役所に行っていない(関わっていない)」(21.9%)、「非常に親切に早く対応してくれた」(17.0%)、「以前と比べて対応がよかった」(10.1%)、「わからない」(7.9%)の順となっている。【図表 56】

図表 56 市の職員の対応への評価



経年比較でみると、前回の調査と比較して増加した項目は、「最近、市役所に行っていない(関わっていない)」(2.7ポイント増)などとなっている。【図表 57】

図表 57 市の職員の対応への評価（経年比較）



6 定住・交流施策

問26 今後、豊川市が少子高齢化や人口減少といった課題に対応し、持続可能で安定した市政運営を行うためには、定住する人口と、通勤・観光などの交流人口、両方を増やすことが大切です。この中で、あなたが大切だと考える定住・交流施策を大切だと思う順に3つまで選び、下の解答欄に番号を記入してください。

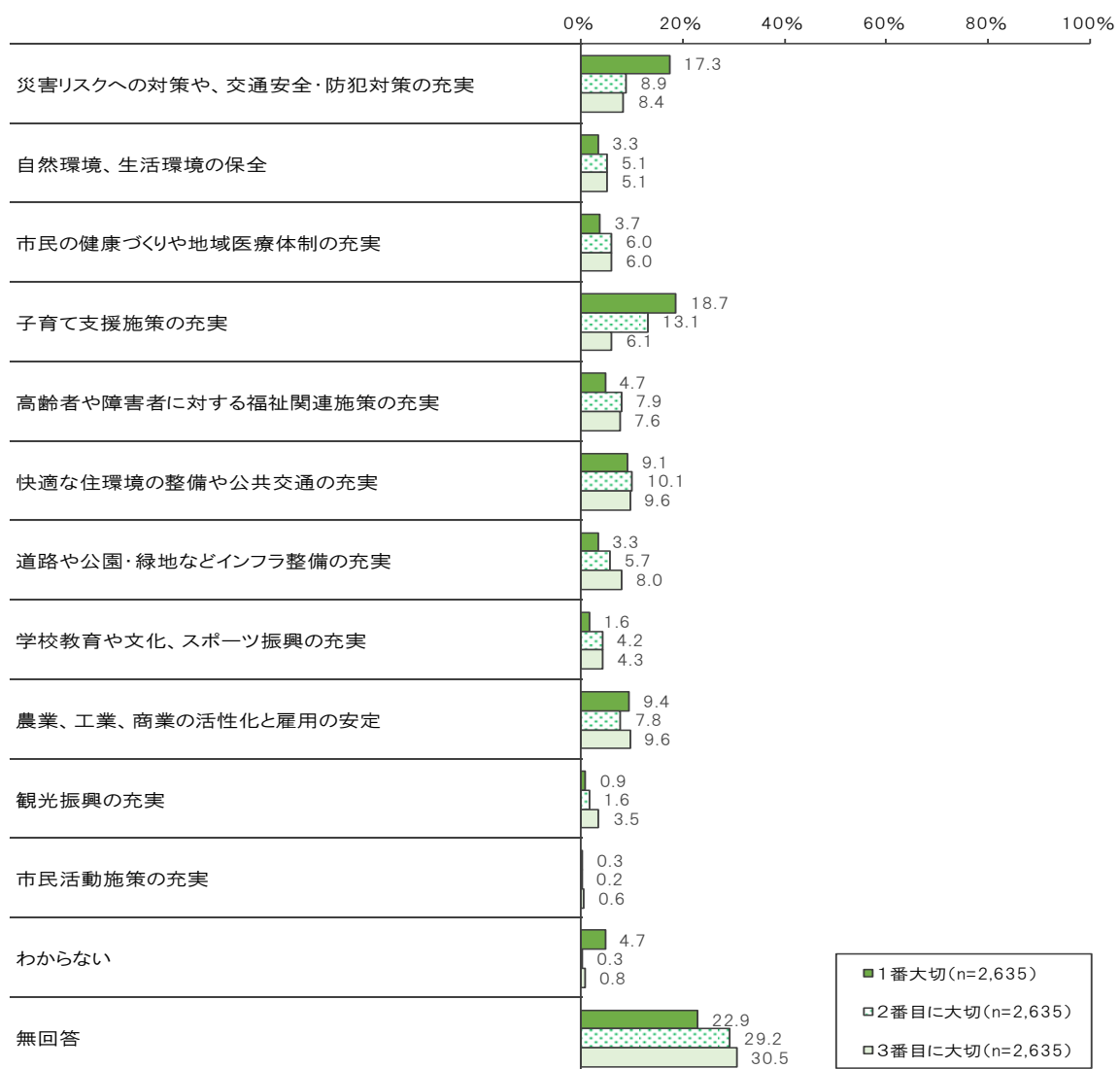
◆ 1番大切だと考える定住・交流施策は“子育て支援施策の充実”が18.7%

1番大切だと考える定住・交流施策は「子育て支援施策の充実」(18.7%)が最も高く、次いで「災害リスクへの対策や、交通安全・防犯対策の充実」(17.3%)、「農業、工業、商業の活性化と雇用の安定」(9.4%)の順となっている。

2番目に大切だと考える定住・交流施策は「子育て支援施策の充実」(13.1%)が最も高く、次いで「快適な住環境の整備や公共交通の充実」(10.1%)、「災害リスクへの対策や、交通安全・防犯対策の充実」(8.9%)の順となっている。

3番目に大切だと考える定住・交流施策は「快適な住環境の整備や公共交通の充実」「農業、工業、商業の活性化と雇用の安定」(いずれも9.6%)が最も高く、次いで「災害リスクへの対策や、交通安全・防犯対策の充実」(8.4%)、「道路や公園・緑地などのインフラ整備の充実」(8.0%)の順となっている。【図表 58】

図表 58 大切だと考える定住・交流施策



第 16 回 豊川市市民意識調査報告書 【概要版】

発行年月：令和 7 年 8 月

発 行：豊川市 企画部 秘書課 広報広聴係

豊川市諏訪 1-1

TEL：0533-89-2121

FAX：0533-89-2124